明治二十一年八月十五日發兌

以良都女

第十四號

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

いらつめ第十四號目次。

家政。小兒育て方神童才女の談。

小説。正本はむれット。

雑纂。人工の片輪。（支那婦人の足。並西洋人の足）（挿畫入）

流行。鐵柄の蝙蝠傘。米國貴婦人間の日本風の流行。

化粧。毛を延ばす奇法。牛乳で顔を洗ふ可否。

講義。用器畫稽古の仕法。

文藝美術。本歌取様諸説。花と花瓶との關係。歌數首‖美妙。唱歌‖美妙。新体詩‖重陽禪師。

論説。日本の婦人に望む。

批評。新編紫史細評。

餘興。新作謎……（懸賞）。

月報

唱歌　雲もし遥ぐ（樂譜付）。

社告

いらつめ發行所成美社來九月一日ヨリ神田區駿河臺南甲賀町八番地ニ移轉可仕候

但第十四號發兌以後の事務ハ已ニ同所ニ於テ取扱居候ニ付御用向ノ御方ハ同所ヘ向御申越相成度候也

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

改良婦人服

（いらつめ第十四號流行の部を見よ）

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

いらつめ第十四號

家政

小兒育て方。

神童才女の談。

前號には小兒の癖ハ成人して後善くなるか惡しくなるかの岐路だといふお話をいたしまして親達の御注意を促しましたが今回ハ小兒が稍智慧付きましてからのお話しでムいます。此時分が小兒の育て方の中最六ケ敷い最危險な時です。親達の丹精で玉の樣な男兒や花の樣な女兒が生れますと明暮其成人を指僂へて待て居りますから待つ程ジレッタイものハないもので笑顔を作りカーチャントーチャンの片言を話し齒が生へ匍匐出し步行き始めるまで道行の永きと一日三秋と思ひなりますが矢張三年經てば三つになります昨日まで乳房をイヂつて居た頑是ない小兒が今日からハ石盤持つて幼稚園へ出掛けます。ア丶小兒の成人も早いものダと成人したのを見るに付けて親達ハ三年懷抱の辛苦を忘れます。さて是から身体も智慧もズンズン發達いたします。さて智慧ハ教育する丈に發達するは尋常のことですが教育の外に遺傳といふものがありまして之が小兒の時に發するものと年長けてから發するものとあります丁度遺傳病が小兒の時に發するのと老後に發するのとあると同じ譯です。智識の遺傳が小兒の時に發しました時には其小兒ハ神童才女とても囃されます壽伯の息が箸を持つことを覺えたころから筆を吮ふことを眞似し十歳にも滿たぬ中に早しから欽蹟を書き或ハ恭容の息が乳母の脊に在る時から碁石の法を會得し七八歳の童子が斑白の親父を閉口せしむることが儘あります其外小女が歌を詠み字を作る杯ハよく聞くことです。サアケ樣な小兒を持つた親達の心持ハドウでせう。近所合壁に誇り行き親戚故舊に吹聽し他が賞むれば得意になり千金を得たよりも嬉しく龍の腮の珠を獲たやうに外目には見えます。無理はありません道樂息子でも片輪娘でも可愛いといふ親の愛ですもの玉のやうな花のやうな而も十人並百人並勝れた伎倆があるものの氣遣沙汰のやうに見ゆるのも無理はありません。かやうに善き遺傳のある小兒ハ末頼母しい人と成れます。がしかしながら小兒のときは如何に智慧遲くとも辨はありま

せんから四方八方から賞め立てられますと自然に漫心が生します。　無闇の賞讃は小兒の爲めには鴆毒です折角の美質も賞讃の爲に漫心を生じ遂に凡庸の人となりて終ります。　世間には神童才女と稱へ一郷一國にもて囃された小兒の話は往々聞きますが何時の間にか凡人に化するものと見え壯年に至る迄もて囃さるゝ人は一向に聞きません。　みな親達が喜び過ぎて賞め倒したのです。　小兒育て方の中最六ケ敷最危險だと言つたのは茲の事です。

年稍長けて後遺傳の發するは身体の發達と伴ひますから危險は少うございます。　偉人豪傑といはるゝ人は皆遺傳を受けた人です。　その遺傳が小兒の時に發したのと稍長じて發したのがあります。　幼にして穎悟一を聞て十を知るといひ八歳五經に通ずなどいふ文句は偉人豪傑の傳記中に見る處です。此等は幼時神童といはれたのでしやうが親達は之に鴆毒を飲ませなかつたと見えます。　だから神童ともいはるゝ小兒は偉人豪傑とも成人すべき美質を持ちながら親達の愛に加減がなき故に凡庸の人となるものが多うございます。

いらつめ記者の口癖ですが男は男らしく女は女らしく育てるが教育の究竟の目的で小兒は小兒らしく育てるが小兒を育てる極意です。　小兒で大人らしいのも花に譬へていはば狂花のやうなもので珍らしくはありますが花期に咲く花でありませんから實を結びません。

母親「太郎や、御前ハンケチを持つて居ながら何故衣物で顔を拭くのだね？」「だつてハンケチは顔を拭くもンぢやあるまい。」「いゝはなぜ？」「でも阿父さんは宴會へ出ると毎でもハンケチを振つて餘所の貴婦人や令嬢に相圖を爲るよ。だからそのためのハンケチだらう。」

小說

社告

美妙齋主人病氣で執筆も出來ず因て此號に限り遺憾ながら小說空行く月は掲載せず、其代として正本はむれツとを掲げました。　また別に小說忍ケ岡といふのを出す趣、前々の號で御約束いたして置きましたので御催促になる方もございますが、是元は空行く月と仝じやうなもの故、繁冗を恐れて今に出しませんでしたが、その代り目先の些し違ッた正本はむれツとを是から成るべく每號掲載いたすやうにいたします。　また此回看客の御待受に背いた償として空行く月は次號で十分面白く御填合をいたしますから何卒このところ惡からず御容赦を願ひ升。

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

正本はむれッと（出來るだけの言文一致体）

美妙齋主人譯

序幕城門幽靈出現之場（十一號のつゞき）

（まアせらす）　そこで各位御すわりなされ。拙者が申す事の仔細、それは即ち外でも無く、まづ第一に俺們などに嚴しく此邊を戍らすこと、次に日々大砲うつ事、次に武器買賣の市場を他國と開くこと、次に船の大工を急迫り、一週間に一日の氣保養をさへ爲せぬと、また人々を驅役ひて汗もしとくにある迄に夜を日に繼いで催促る其故、如何に何方か御存じですかな。

（ほらしお）　はて其義なら拙者が御答へ。高くは言はれぬとながら今幽靈で現れた先君「くろオぢあす」樣、御存じでもムりましやう、諾威の「ふオアちんぶらす」と威勢を御競ひあそばされ、遂に戰爭となりましたが、素より勇氣無双の先君、齒の立つ者のありましやうや、「ふオアちんぶらす」も敵し得ず、あはれや生命もろともに國を捧げて扨落着。然しながら敵方の怨恨はつもり行く斗り、諾威は國境で樣々不法は所業におよぶは……洵に食を貪る胃袋……油斷のならぬ珍事です思ふに此頃此國で斯う嚴重な戰爭の用意を爲るのも全く此爲でしやう。

（バアなアど）　なるほど一理あり氣な御説あの怖ろしい姿の人……しかも其等の戰爭の根本……その人が如此俺們の前へ鎧ふて御出なされたのも所以無くはムりますまい。

（ほ）　小さい塵も目には障る。往昔羅馬の榮えた頃、まだ「しイざる」も死なぬ前には墓地に主なく却ッて市街に負傷者なンどが唸いて居るとか。まこと血の露、火の星影、天常闇となる時は月も蝕はれて朧となる。世の前兆といふものは決して爭それぬもので、それ故今度の事なども こりや只事ではムりません。

（この内幽靈ふたゝび出て來る。）

しかし靜に、御覽なされ、またく現出て來ましゝ。たとひ、此方を睨むとも、いざや拙者は途切りましやう（惡魔の前の途を横に切ると惡魔の力が衰へるといふのは往古の妄信でした）止まれ、妖怪。聲が出るなら返答しろ。もし又希望が有るならば打明けて言ふて胸を休め、この「ほらしお」にも功名させろ。もし又國の運命に心注いふ事が有るなら、言ふて、避けられる樣に爲ろ。で無ければ其方が生前埋めて置いた金などあッてそれに心が殘ッて居るはか。いづれにしても返答しろ、止まれ妖怪、返答せねのか。

（この處曉の雞啼く。幽靈は引込まうとする。

なれ、引上めて……「まアせらす」どの。

（ま）棒を食られせましやうかな。

（ほ）止まらぬならば……御存分……

（これ内「ばアあア」ど」も「まアせらす」も立上がッて幽靈を追廻そ。

（ば）此處だ。

（ほ）此處ぢ。

（ま）ちエイ逃げた。

（幽靈引込む。

のア脱落ッたわイ。はげしく出たので根が風か烟のやうなもの、とう〳〵空を打たせられた。

（ば）いや、去かし、丁度鷄が啼かうとした其前に何やら返答しさうでした。

（ほ）左樣、そして鷄が啼いたら宛然罪でもあるやうに慌てゝ消えてなくなりましたの……はゝア分解ッた。それも尤も……鷄の朝の喇子の笛、その勇ましい一歌で夜の惡魔も消滅し、海にも火にも、天にも、地にも、妖怪の皆跡を拂ふと世の人々も申します。如何にもそれぢ、その故だ。

（ま）なるほど丁度今頃は祖師が誕生なされた刻限。それ刻限には夜も靜で空の星さへ噪がぬとら、世の中の人の申します。

（ほ）實は拙者も聞いてから、見されて始めて感心しました。が、はや朝もあけとほり茜の上衣で東の山のつゆを踏み〳〵出で來ますそ。吾儕どもも護衛を止て差支は厶りますまい。そしてま是から今の顛末、包まず太子「はむれッと」さまに言上といたしましやう。各位御意見如何でそ。それぞ即ち吾儕が太子へ對する情といふもの、また吾儕の義務といふもの。

（ま）是は〳〵よく御氣注かれた。なンで吾儕兩人に

（ば）別の意見が厶りましやう。そンなら今朝、今朝ばかりは

（ほ）太子さまにも

（ま）いくらか御機嫌

（三人）よろしうあらせられましやう。

雜纂

人工の片輪、支那婦人の足并西洋婦人の足

是まで頭容の變形の事を終りたるか故に直に足の變形に付て言んと欲すれども先づ手の變形を簡單に述べ去らんとす。

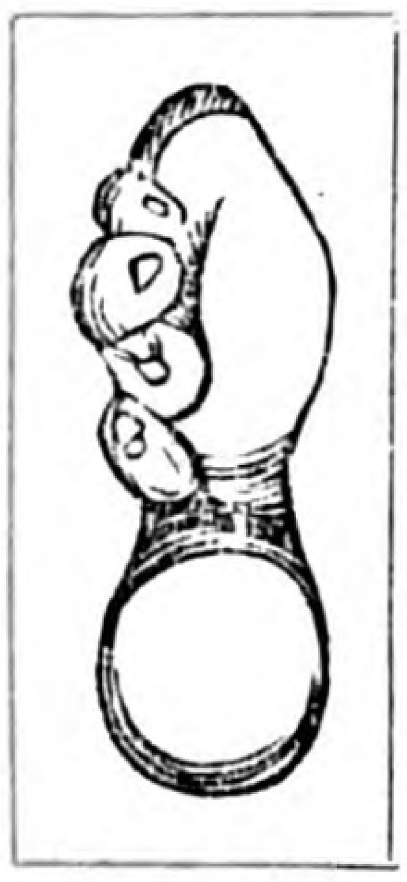
手に人工を施すは唯左手の指一枝か或は二三枝を切るに止る。

是は唯風習の爲のみにあらずして懺悔を表する爲或は神に捧ぐる爲或は死人の靈に供する爲になすものなり。

此風習はアメリカ印度人アフリカの蠻族オーストラリア人ポリ子シア人の中には一般に行はれ殊に異風の最盛なるフィージー島ニ於ては酋長の嚇怒を解くが爲に指を切り或は親族の死したる時指を切て親愛の情を表するとあり。

然れども足の變形は若痛を受くると及び健康と快樂を損するとに於ては身体の他の局部よりは甚し。殊に驚くべきは此風習は他愛もなき野蠻人の間に行はるゝにあらずして文明の高度に進みたる人民の間に行はれ智育に於ては世界の最上等に位する人民の間に行はるゝは豈驚くべきとならずや。

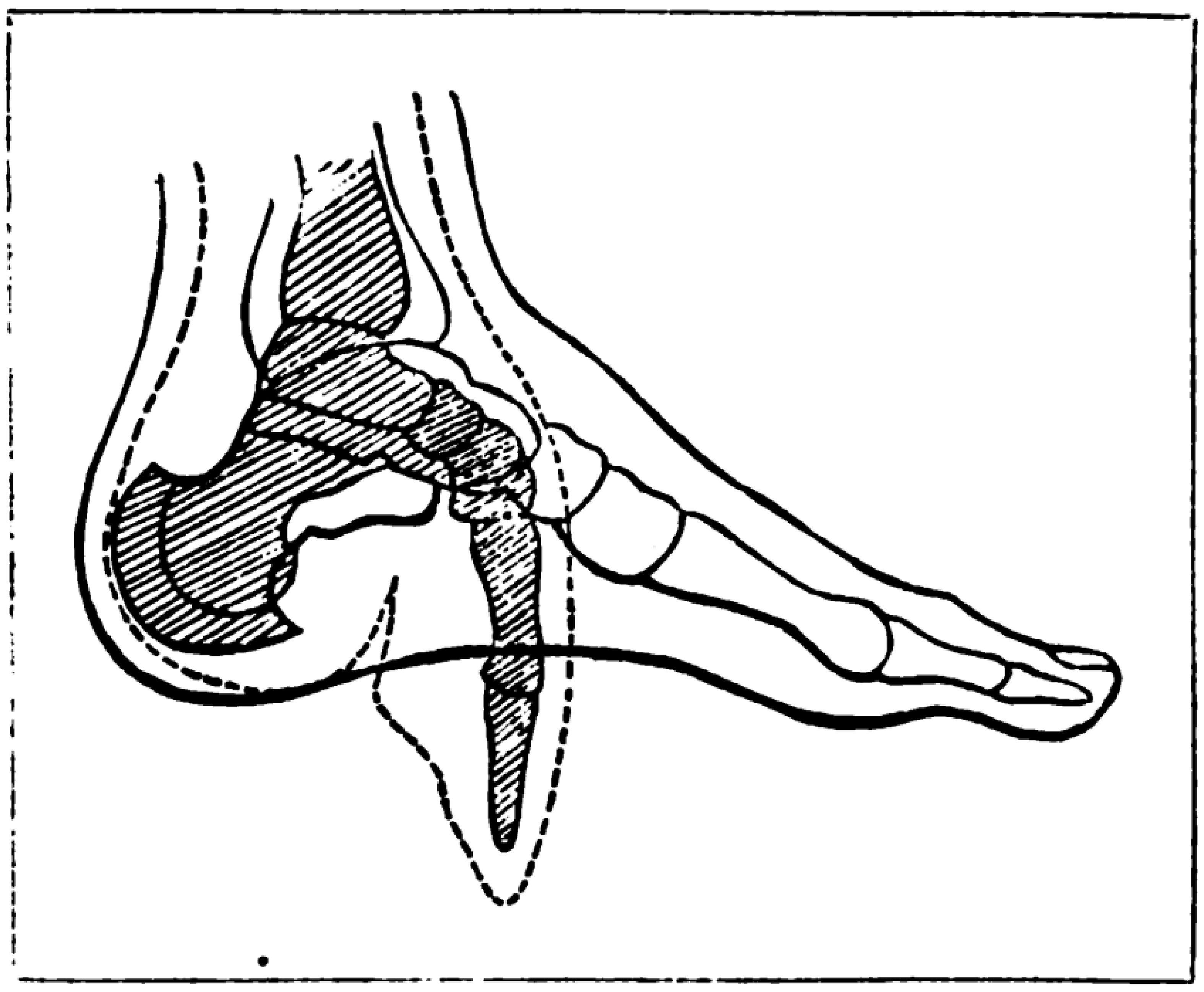
足の大さと形を變ずる著しき例は有名なる支那婦人の足なり。此風は獨り上流社會にのみ行はるゝにあらず或省にては上下おしなべて流行せり。此變形は女兒五歳頃の時布をもて足を緊く縛りて生するなり。アメリカの宣教師ノルウード孃の譚に縛帶は專ら此用の爲に作るものにして初年は巾二寸長さ六尺次年よりは長さ一丈五尺に至る。之を施すに縛帶の端を足の甲に止め足の指より蹠に廻し跟に掛け帶の盡くるまで卷き込み端は緊く縫付くるか故に指は蹠の方に折傴み甲は膨れ趾は太く凹む是より一ヶ月を經て縛帶の儘熱湯の中に投じ暫時浸し置きて後注意を加へて縛帶を解くに豫て明礬の粉或は他の附藥を用うといへども一面に糜爛れ皮膚或は蹠の肉或は一二本の指は縛帶を解くときに共に剝かれ取らるゝとあり。かゝる場合には足は必小くなり優しくなるべしとて満足するといふ。縛帶を解く毎に成るべきだけ速に新しき縛帶を一層緊しく紮るなり。最初の一年間は其苦痛いはん方なく起きも上らず蓐上に轉顛び泣き叫び呻き悶へるの外なし。殆二ヶ年間は始終足痛止まず常に鋭き針にて刺さるゝ如き痛を覺ゆといふ。斯く常に緊縛するか故に遂には感覺を失ひ筋肉神經血脈悉く消盡し骨は皆元の位置を換えて足は遂に永く片輪となる。



支那婦人の足の裏

其變形の有樣は第一小指四枝は蹠に折れ傴み大指のみ元の位置を保つか故に足の先は尖りて盡く。第二指の根及び跟を

縛寄するが故に足の甲は短くなり蹠の中央に深き横の襞積を作ると上の圖を見て知るべし其形は人間の足といはんより寧ろ馬脚牛蹄の觀ありて足よく全身の重を托するに足らざるは其歩を運ぶの有樣を見て知るべし。



天然の脚と支那婦人の脚との比較圖

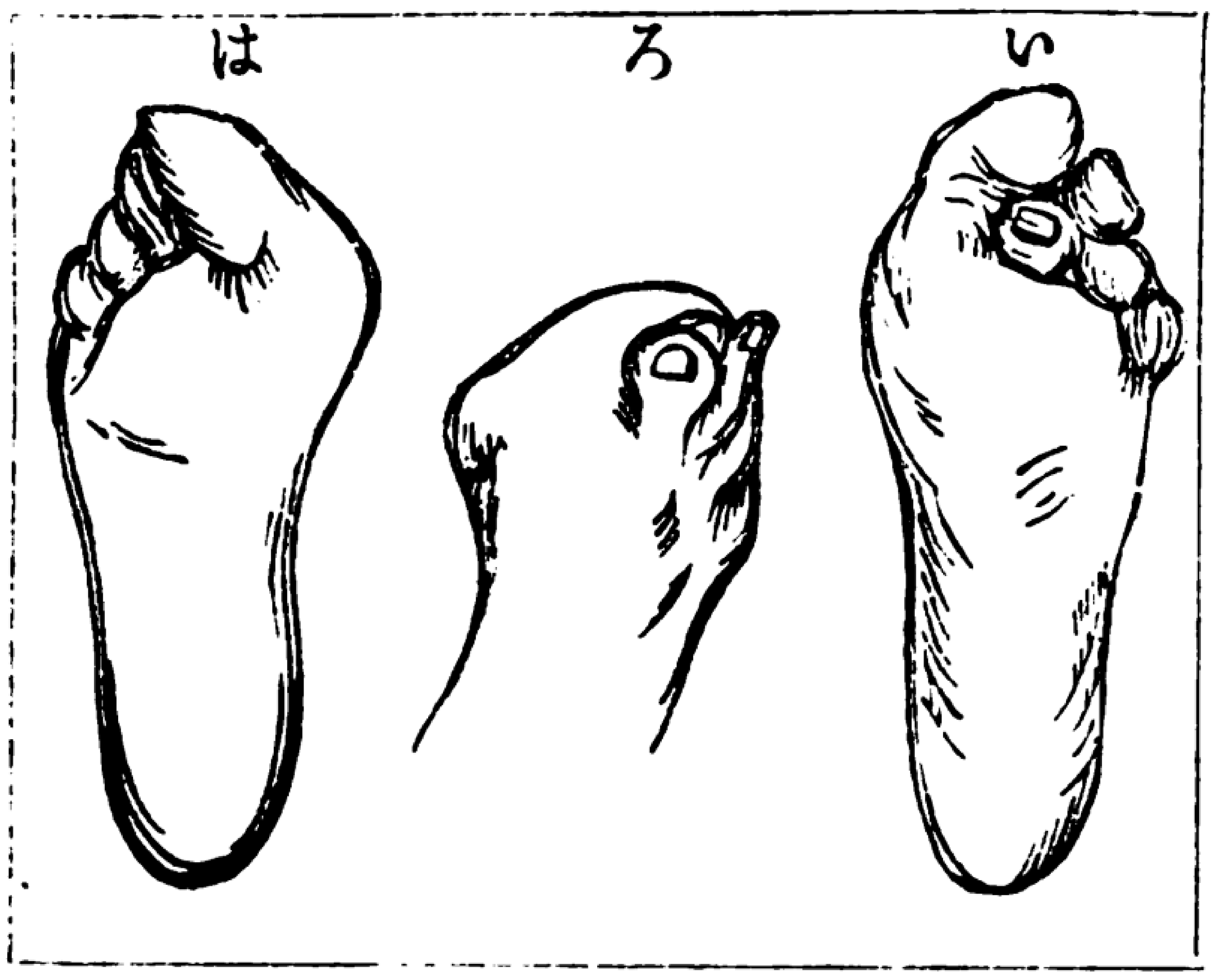
(點線及陰影は支那婦人の脚の外觀及骨格なり)

譯者曰く支那婦人の小脚は男子の辮髮と並べ稱せらるゝ異風なり嘗て蘊所といへる人支那に遊び其風俗戯詠十首を明治十一二年の頃報知新聞に寄せたるとあり今其小脚といへる詩の小序を茲に譯出す。

漢人の女兒年五六歳に及ば即ち布をもて其脚を緊しく縛り死に抵るまで解かず遂に骨傴み肉屈みて數寸の足となるに至る。之を稱して金蓮といひ或は玉筍といひてもて美稱となす。足稍大なれば則ち醜となし妻を娶るに才と貌とを問はずして唯其脚を問ふに至る。脚愈小くして聘禮愈貴し蓋一種出類絶倫の俗習なり然れども其婦人の路を行くに脚脆くして自ら扶持すると能はず蹣跚蹌踉として歩む殆見るへからず故に災有る時焚死ぬもの毎も婦人多し。

支那人の風俗と如何も不思議に見ゆれども之を歐羅巴人の風俗に比すれば五十歩百歩の談のみ。英國にて老幼貴賤の區別なく人々の足を吟味せば予は左の如くいふに躊躇せざるべし曰く何人の足も多少有害なる壓迫の結果を蒙らざるもの甚鮮しと。然らば試に問はん足は當に如何にあるべきや。外形は古人の像例へばヘルキュリースの裸体像或はアポロの草履を穿ちたる像を鑑よ。嬰兒の足の指間廣くして運動の自由なるを見よ運動自由にして而も力あり撓み易くして而も強きを見よ無數の骨、關節、靭帶の具はれるを見よ。然る後ち顧て多年所謂流行の風に染みし美人の足を見よ此天然無缺の足が如何に毀れある有樣となりしか如何に不具になりしか

を發見せん。　指は互に相壓し大指は元の位置を保つと能はずして外方に屈りて小指を壓するが故に小指は自ら容るゝの餘地を失ひて指列より上に壓し出され或は下に壓込められ關節は強直して働を失ひ筋肉は變形して感覺を失ひ愛らしき窪隆は全く壞れ人間の足の最美なる最勝れたる廉は悉く除き去りて牛馬の脚を學ぶは浅猿しき至てならずや。



靴の爲に片輪となる
英國人の足

今その原因を尋ぬるに天然の足の形と靴工の作る靴の恰好を比較せは明ならん。　ドウィー氏の語を假りていへば「靴尖は楔の如く甲の處は中指の處より畝を作りて隆起て兩側は殺ぐが如し靴の形より判斷せば人間の足は大指中央に在りて小指兩側に並べるか如き恰好にて鴨脚に類せり」と。　然れども足の變形かくまで甚しからざるものを見ると屢ならん。しかしながら若し多數の足殊に下等社會の人の足を吟味するの機會を得るときは一層甚しきを見るべし。　上に掲げたるは（い）圖は男職工の足（ろ）（は）圖は女職工の足なり歐州人の人工を加へたる足の通常の畸形にして前に示しある支那婦人の足と好對といふべし。　天然の足を見るときは指の方向は足の甲の方向と同一なり然るに靴の爲に大指の屈り様甚しくして足の甲の方向と直角となりゐるは屢見る處なり。　英國の職工は幼時より重き硬き不恰好なる靴を穿つか爲に踝、指の働を失ふもの多し陸軍の歩兵も亦同様にて其制定靴は足の發達には非常に害ある拵方なり。　健康上の多くの害は此に原因するものなり。　倫敦の重立ちたる靴工は一般に行はるゝ形より少しく變して足に適するやう造りしより之を買ふに足るものは稍其害を免るべしといへども多數の貧人は脊に腹は代へられず出來合の仕入靴にあらざれば買ふ能はざるが故に矢張此悲境に沈淪せり。

苟も道理を解する人ならば何人といへども實際人間の足を不恰好なりと思ふものあらざるべしさればとて足に合せて靴を造らする時は非常に見苦との故障を言出すは常の事なり是

畢竟其形を見慣れぬが故のみ。　何物にても一旦流行し始めたるものも一時は立派なり面白しなどゝ賞翫されども數年の後にも馬鹿らしいと見返りもせぬに至るとあり。　人ありて申分なき靴を製し人之指摘を顧みずして之を穿くと之は人人流行靴の有害なるを悟り見てもゾツトするといふに至るべし。

西洋婦人の靴

尖りたる靴の害に加へて一層之を助くるものは今日婦人の穿く靴の跟の無闇に狹く且高きとなり。　かゝる靴を穿くときは步行するとき全身の重を指の端に入るゝが故に遂に一種之病氣を生ずるに至る。　歐羅巴人は常に支那人之異風に驚き或は之を嘲りながら尤めて之に效ふは抑何の心ぞや。

敎へるのはたとひ敵から敎はるのでも害はない。　敎へるのはたとひ親友に敎へるのでも危險い

流行

鐵柄の蝙蝠傘

まだ流行と云ほどでも有ませんが、此頃すこしづゝ鐵柄の蝙蝠傘があらはれて來ました。　鐵柄とは從來の木の心棒が鋼鐵で出來て居りますので、木に比すれば堅度も違つて居ますから從つて心棒も木ほどにも太くなく極細く愛らしく、而して彈力も强うムいますから、風などにもよく抵抗し得ます。

米國貴婦人間の日本風の流行（口書を參看し給へ）

さて前號に御約束しゐ、米國貴婦人が日本服を着けて前の開かぬやうに爲るのは圖の蝶之樣な趣向で、蝶ゞけも記者の意見で形を作つたのですが、其一邊を平絹などで止めるのです。　斯う爲ると實用上と美術上とに就て各一ツづゝの利があります。　第一實用上の利といふも既に如此前を止めて容易に開かぬやうに爲てありますから、たとへば塵で雲を欺く大風の日にも憶めず步行くことが出來ます。　第二美術上之利といふは一体日本婦人の服裝は帶が大層突出して居ますから隨つて膝から下の邊は素直に廣がるやうにならなけれ

ばまづ美さは尋常です。　それ故に婦人方が衣服を着られる時にも必この美を求め、腰の邊をばグッと緊めて力めて纖やかに見える樣にし、所謂婀娜な体を作られますが、まだ前を留めるといふ趣向が有りませんでしたから、それも思ふ樣には行きませんでした。　然るに、口畫の通り、前を留める時には自然衣物が自由に開くのを防ぎますから、腰が纖やかに見ゆる工合も自由自在です。　其處で膝から下、すなはち留めの無い處は上の方との權衡で面白く廣がります。　それ美さの加減、かならずしも褄を折ッてフキに多く綿を入れるにも及ばないほどです。

　啻に利は是ばかりでもありません、蝶などで飾粧かさく留を施せば一寸見た處もよほど面白く優美です。　今はもはや有りませんが、昔の振袖(優美な服の中の第一の優美な服)を姫方も着ましたが、あの振袖の袖口には淡路結などの飾があります。　蝶などで仝じやうな飾を用ゐれば決してわそや今日の婦人服も優美といふ點に於て往昔のに劣る處はありません。　前や袖口の留はかならずしも蝶に限りません。圖に示した見本のやうに縮緬か何かで朝顔や千鳥など作ッて施してそ面白うムいます。

　既に斯う美術上幷に實用上に兩樣の利が有ッては、之でもはや日本婦人服が洋服に劣ッて居る一點も無くなッて仕舞ましたからにも、苟も美術の鑑識のある以上はあの新工夫を用ゐぬ譯はありますまい。が、學校や何ぞで造花を御覺えになッた方は蝶をこしらへやうが、朝顔をこしらへやうが、御自由でムいましやうが、左樣で無い方は早速折角の好工夫を施すのに御困りでしやう。　もし左樣ならば造花師など布帛で物を細工する職人に御あつらへになれば直出來ます。　もしまたそれも一寸御不自由でムいますなら、糸屋へ御注文なさッて淡路結か何か御氣に入ッたのを作らせてそれで留めるやうになさい。　紐で止めるのも中々美事です。　兎に角費用も大して掛らず、そして近頃の好工夫です。　もし圖樣で御氣に入りましたならば早速行ッて御覽なさい。　また之に就き何か御不審がムいますなら御遠慮なく御尋ねなさい。　取纏めて「いらつめ」の紙上で御答をいたしましやう。

次號に掲載する流行新案の重なもの。
植木鉢の粧飾
前留の新形數種

化粧

毛を延ばす奇法。

實に此法は奇法と言つて差支ありません。　其法は別に六かしい事でも無く、六週間か二月に一度ぐらゐ刈ることで、その刈様は毛の尖頭を些しばかり切るのです。たとへば早く草木を肥えさせて莟を持たせるためにその尖頭を留めるのと仝じです。　是も髪毛にのみ施して効が有るのでも無く、生來短い眉毛をも此法で延ばし濃くして蛾眉とする事も出來、また睫毛をも此法で延ばして千金の潤澤を眼に添へることも出來ます。

牛乳で顔を洗ふ可否。

すこしばかりの牛乳を手掌へ受け、之を顔へ十分に塗抹け稍過ぎて後之を洗ひ落す法もよく西洋の貴婦人令孃などが行ふことで、隨分斯うして居れば顔の色も白くなり、顔の肌理も柔くありますから決して悪い法ではありません。　が、牛乳を塗つた跡をば成るべく上等の石鹸で丁寧に洗落すのが肝要で、殊に空氣に烟の多い町の邊に住つて居る人は猶更よく洗はなければなりません

肉色を麗しい薄紅色にする方を此號に出す由前號に御約束いたして置きましたが猶まだ十分用意も出來ませんゆゑ是も左の方法と共に次號に讓ります。

次號に出す化粧色々。

雀斑を去る法。

顔の肌理にある汚物を去る法。

講義

用器畫稽古の仕方第六回　ひ、さ、述

一個の圓形を三百六十個の等しき分圓に割りて其各個の分圓の有する角を一度の角と稱し、其弧を一度の弧と稱して凡の角の度を測る目安といたします故に半圓周は $\frac{360}{2}$ 即ち百八十度の弧を有します又其弧の半部は $\frac{180}{2}$ 即ち九十度の弧ですから四分圓の角は九十度ですそうして二線にて直角を作りたるとき其一線を他の一線に對して直立線と云ます、してみると直角は幾何の角度を有するものなるかは御了解でしやうから次の問題を

（二十八）　一直線あり又其線中の殆と中央に一定點ありて此點より直立線を立る法は如何但しコムパスを用ひて畫ので、三角規を使はないで

四分圓を二個の等しき分圓と割れば其各個の分圓の角は $\frac{60}{2}$ 即ち四十五度を有します。

(三十) コムパスにより一定線上に四十五度の角を作ることが出來ますか圓周を六等分する法は已に御承知です而して六分一の分圓の弧は $\frac{360}{60}$ 即ち六十度を有するとは御解でしやう

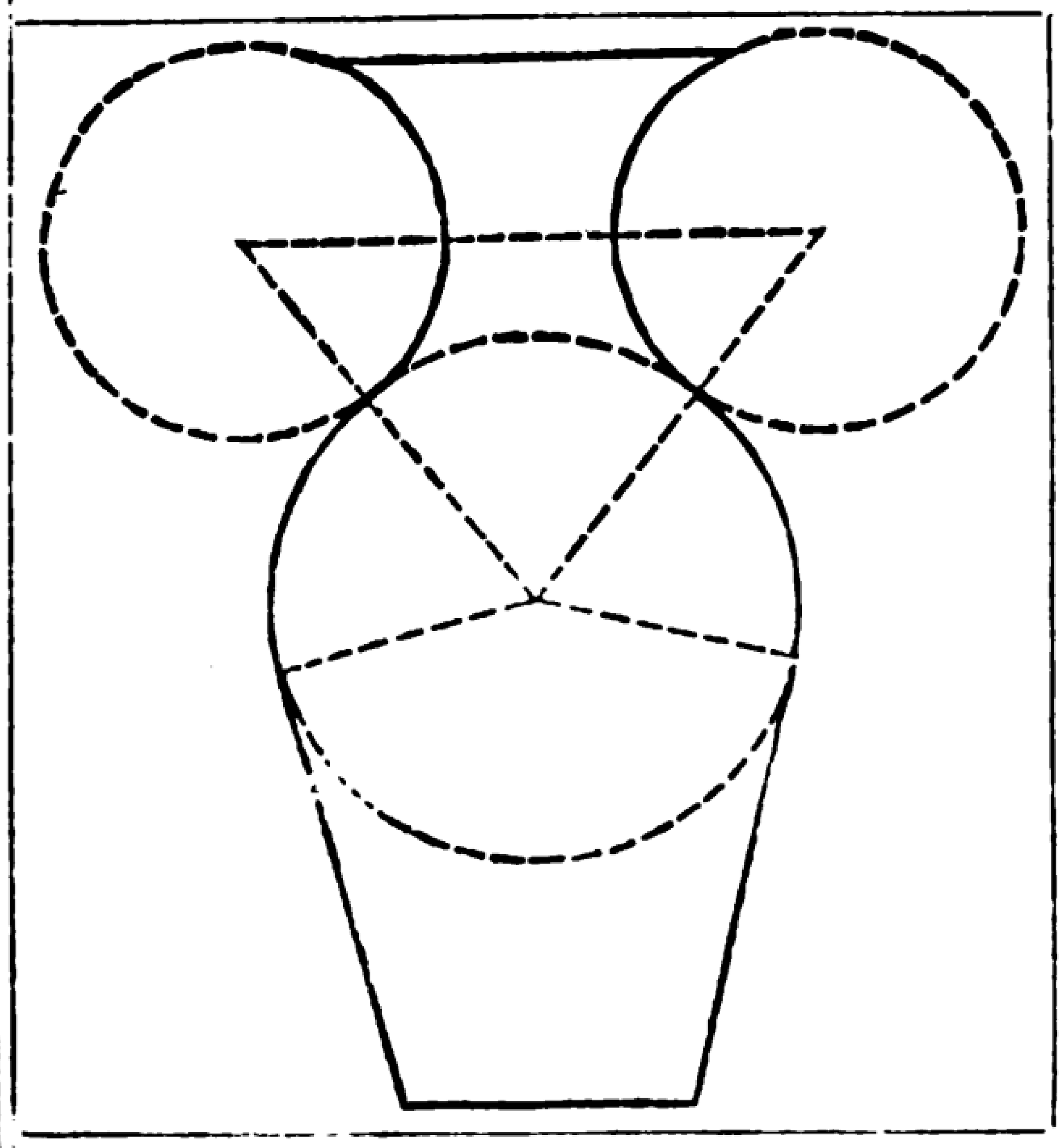
(三十一) コンパスにて六十度、三十度、十五度、百二十度等の諸角を畫く法は如何です。

(三十二) 三角規で一個の直角を畫き而してコムパスによりて之を三個の等しき角に割ることは如何。

(三十三) コンパスを用ひて一定線の一端へ直立線を立る方法は如何、但し其定線を引延せられぬ場合に付きて。

圓内へ一直線を引きて其圓周に挾れたるものを弦と云ひます而して其弦を二等分する處の分割線は必ず圓心を通過ます。

(三十四) 前説によりて圓形の中心を求むる方法を御工夫なさい。一直線が圓周中の一點にて圓形に觸れて其直線圓内へ入らざるものを圓の接線と云ひます此線は其相觸れざる點へ引きたる圓の半徑と直角をなすものです。



(三五) 定圓あり其圓周中に設けたる一點より接線を引く方法如何。孤と直線とを連接して其接點に角を生ぜざらしめんと欲せば直線は即ち圓の接線を作るべき者でなければなりません。今簡單なる器具に就て其一例を示せば上に圖する處の如し。又之を應用して整齊なる摸樣を畫いて御覽。

是まで追々掲げました用器畫の問題に付き答案を寄せられました方も質問をせられた方もいますから答案の正否を判し質問に答ふる爲本號より前々の答を出します

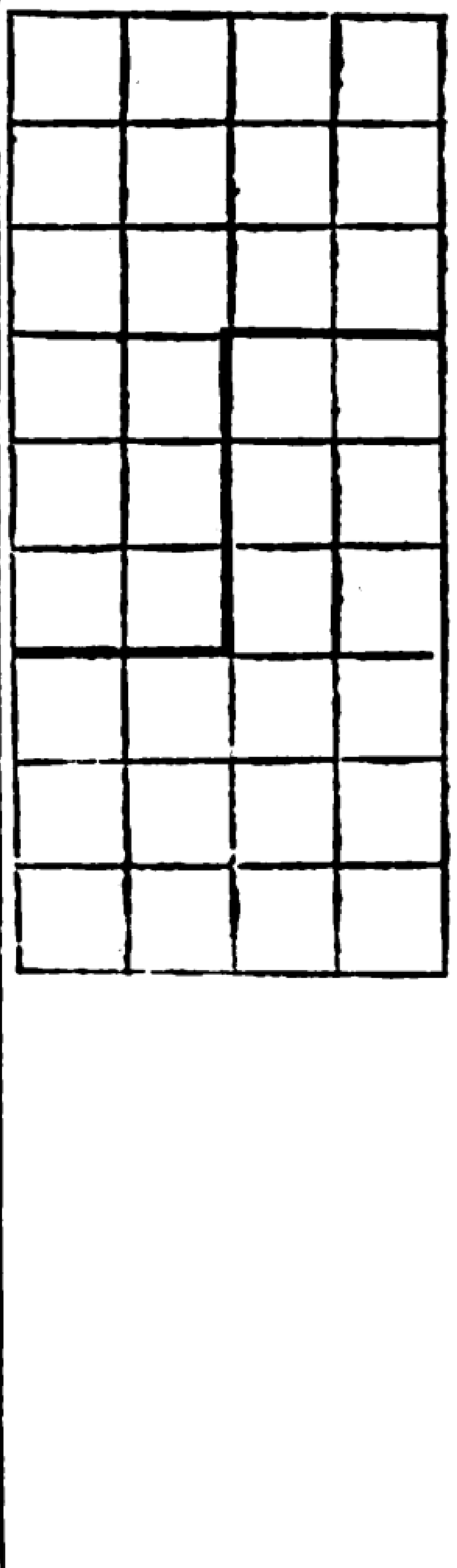
用器畫の答　いらつめ第九號及十號の部

(一) 正方形の相對する邊を曲尺に因て一寸づゝに切り其相對する點を連接する直線を引きて一寸平方が十六有ことを示す

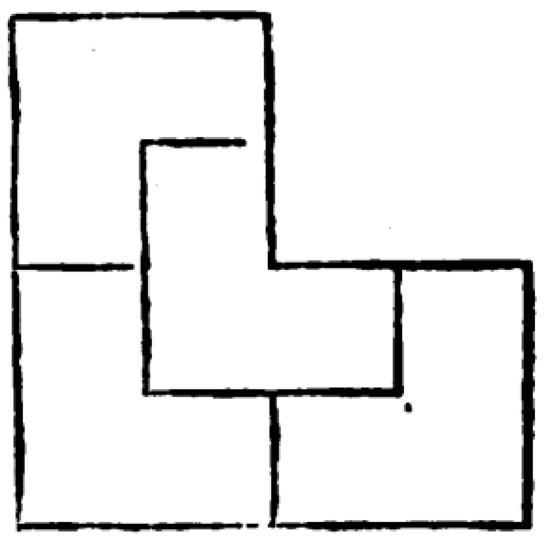
(二) 正方形の紙を隅違に折れは三角形四ツ出來ます其紙を折目の通りに切はなし、其二枚づゝを繼合はします

(三) 正方形は對角線を引きて二個の三角形を作り、其一個は一邊を引き伸ばして之を正方形の一邊の長サに等うして此點と正方形の一角とを連接すれば正方形の半部に等しき三角形が出來ることを示す

(四) 三寸長サの一直線を引き其の兩端へ三角規によりて各直角を作りて二線を各曲尺によりて二寸の長さにして其の兩端を連接すれば要むる處の長方形が出來ます、而て一寸平方の幾個あるかは(一)に仝し方法です。 (五) 先巾四寸長九寸の長方形を畫きそれ(大過きますから八分巾に一寸八分の長サ

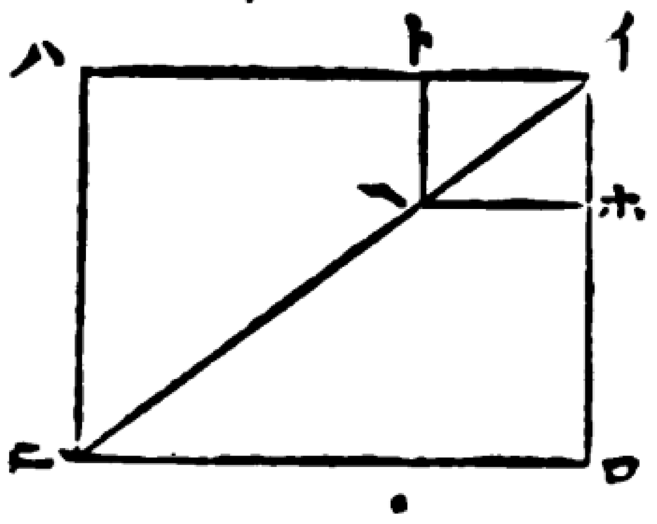


にして亦同じ割合でしやう）其中に含む一寸平方の坪數を見出してから此の圖の如くなるとを示す。



（七）　あれハ問題ふ誤字がありました三分一とあるは二分一とですから別に答ハいりますまい。

（八）　長方形の中へ其一對角線を引き題



意ハ三分一故に其三寸イロ邊上に一寸の巾を記し此点より三角規によりて亦イハに平行する一線を引きて其線の對角線と交切したるホ点ハよりイロに平行する一線を引きますとニロホヘの長方形が要する處れものです。（九）　もあれと同じ方法で出來ますから省きます。

文藝美術

本歌取り樣の諸說。

古歌の言葉を取りて之を新しき趣向に用ひて歌を作る時はその古歌を本歌と云ふ。　例へば。

照りもせず曇りも果てぬ春の夜の朧月夜ふ志く物ぞ無き

と云ふ歌の言葉を取りて、

大空は梅の匂ひふ霞みつつ「曇りも果てぬ」春の夜の月

と詠むの類なり

此の取り方を大別すれば二樣あり、其の一ハ本歌を離れて獨立するを得べき者にして、前ふ擧げゝる歌即其の例とすべし。　其の二ハ是非とも本歌に依らざれば意味を成すあと能はざる者なり、例へば、

月やあらぬ春や昔の春ならぬ我が身一つは元れ身にして。

を本歌にて

面影の霞める月ぞ宿りける「春や昔」の袖の涙に

と詠めるが如し。　あの歌の意味は昔在五中將が「月やあらぬ春や昔の春ならぬ我が身一つハ元の身ふして」と歎かれた其れと同じ歎きの袖の涙に面影れ霞める月ぞ宿りけりと云ふ意にして「春や昔」の一句に本歌一首の意味を擧げて假たり。

本居宣長先生は總べて本歌の取り方ハあの第二種の取り方に同じ、唯第一種れはテニヲハ全備したると、第二種ハテニヲハの結び或本歌に讓りし迄の差ひありと樣に說かれたり。されば最初の例の如きも「曇りも果てぬ」一句の中に本歌全首の意味籠もれりとせり。

石原正明氏は何故にや蚤取眼をして本居先生の落度を拾ひ、强ひて其の反對に立つ癖ふるが、あの本歌の論に於も例の如

く反對に立ちて云ひけらく、本歌を取るは唯其の言葉を借るのみ、意味の上に於てハ毫も借るべき者に非ずと。さて第二種の「春や昔」の例の如きにハ全く關係せざるが如く、之を不法又ハ例外とする者に似たり。

本居先生も餘まり拘り過ぎたり、石原氏亦甚だ穩ならず。何れも極端と云ふべきが如し。

橘守部氏ハ二氏の中間に在るが如くにして其の實ハ矢張本居を目の敵にする一人なれば、猶石原の説と同じく、第二種の取り方ハ古歌の奴隷となる者にて終に獨立すること能はざるべしと云へり。

余輩念ふに既に本歌を取る以上は、譬へ獨立の出來る歌にもせよ、其の極意とする所は巧みに典故を運用したるに在り、陳腐を新奇としなるに在り。されば其の興味の極意ハ矢張本歌あるを以てなり、純然たる獨立の者に非ず。もし純然なる獨立の者あらば何が故に本歌を取るや。故に本歌ある歌は唯本歌に依賴する事の輕重ある迄にて、全くこれと離るる者は無し第一種の例なる「曇りも果てぬ」の歌ハ依賴する處さのみ重からず、唯古歌の匂ひが床しき位に止まれり。

梅が枝に來居る鶯　春掛けて啼けどもいまだ雪ハ降りつつ

を本歌として

鶯の「啼けどもいまだ降」る雪に杉の葉白し逢坂の山

と詠めるに至りてハ本歌に依ること既に一歩を進みたり。「鶯の」と云へる「の」の字に目を注くべし、この「の」にても是非とも典故無くてはあらず。是等ハまだ分り悪からんが、

心あらん人に見せばや津の國の難波あたりの春のけしきを

を本歌にて

霞み行く難波の春の曙に「心あ」れなと身を思ふかな。

と詠めるに至りてハ、唯テニヲハの首尾獨立して調へるのみ其の意味は本歌なければ殆ど分らず。「春や昔」も亦唯テニヲハを本歌に讓れるのみ。

されば余輩の大別も實ハ自然物の分類に侔しく一定の境あるにもあらず。この同種類の一連續に就きて、唯輕重厚薄を見るべし、誰れか能く正不正を辨せん。唯是一時の慰みならば他人の客となるも亦面白し汝が技倆拙からば客に非ずして奴隷とならんのみ。奴隷と成るも成らぬも人に在りて取り方に在らず。人は無宿なるべからず、然れども時として花見の

客となるハ恥にあらず。さまで矢釜しく云ふならば謹みて本歌を取らざるを上策とすべし。

最後に云ふ歌人の戒めハ本歌を取るは古今集の中に限るべしと云ひ或ハ三代集に限るべしと云へり。其の精神は他にあらず、人の知らざる陰僻の典故を用ふべからずと云ふ事ふて至極尤なる事なり、然れども歌集を限るは既に拘泥み過ぎたり。たとへ古今集中の歌たりとも下手なる歌、人ハ多く記臆せざる歌などを取るハ宜からぞ。三代集以外の歌なりとぞ百人一首の如く人口に膾炙したる者なば本歌として何の差支かあらん。相構へて漢學者の如く無茶苦茶の故事を用ふべからず。古人の詠まざる名所を詠むな抔いへるも大凡この意を以て斟酌せば思ひ半に過ぎん。

花と花瓶との關係。

いらつめの第三號でしたら、すべて美といふ事を成すには相侵すといふ事の無いやうにし、勉めて變化を作るのが必要だといふ趣を述べたことが有ります。今又爰に花と花瓶との關係と題して書記す事も仝樣なことで、一寸御注意にあつても宜しい事だらうと思はれます。

立花ふもしろ、生花にもしろ、隨分巧に爲さる方もありますが、しかし花と花瓶との關係を十分に知ッた人は罕です。因て折角雲を學び、鳥に似せて作ッた枝も何處やら生氣が見えぞ、うるはしい花の色を夜の錦となッて仕舞ひます。是では實につまりません。何故此樣な失策が有るかと云ふと花瓶の色合と摸樣と活ける花の種類と相侵さしむるからです。今赤地九谷燒の花瓶ふ緋百合をさしたと考へて御覽なさい。そもくうるはしく見えましやうか。決して麗しくは見えません、實ふ極しつこく見えます、どこやら眼を射過ぎるやうでその極不快な感じがします。之れを何故かといふと九谷の花瓶の赤色が百合の緋色を相侵すからです。御存じのとほり赤は最々しい色合です、眼ふ強く感じます。それ故赤色の陶器ふ花を活けるふ於てはどうしてもその眼を射る色ハ力を殺ぐやうに爲なければ迚も不快の感じは除けません。故ふあの緋百合の代りふ紫の燕子花でも活けたなら赤の力ハ重々しい紫ふ幾許か打克されて其處でやうやく輕くなります、其處へ尙綠色ハ葉枝少し多くあしらへば美事十分な配合が出來ます。

仝じ道理で淡藍の七寶などふ紫の燕子花を活たり、紫泥の

花瓶に連翹なぞを活けたりするのは故意々々花と花瓶と相侵させる譯で迚も好くは見えません。　さア斯う言出して見ると一々花を活ける度に花瓶を易へなければならず、それでは隨分不便です。　それ故に花瓶を御求めになるなら成るべく何にでも廣く通用するやうな者を擇んで御取りなさるものが至極注意すべき點で、その廣く通用するやうな物といふのはまづ大抵次の通りの間色の花瓶です。

濃栗茶○濃海老○白○濃藍茶○藍柄葉

すなはち青銅にあるべく澁いのや何ぞが最も廣く通用して適當するもので、大抵の花なら、たとひ一色でも、あの種類に活けて差支はありません。

併しながら折角今迄御秘藏でなッた伊万利燒を眞逆に左樣花にあはぬとて仕舞ッて計り置けず、それを救ふにはまた相應の法が有りませう。　卽ち變化を與へるべき色合の他に花を更に差添へて活けることで、たとへば九谷に緋百合を活けなまゝそれで恰好に見えるやうにするには薄黑みがゝッた色の百合を猶一二種加へて適當の位置へ配り、そして緋と九谷の赤色との間をなるべく碎くやうに爲るのです。

是は一寸した事らしくて中々一寸したとで無く、隨分此理に通曉なりなされば直ぐ其理を應用して衣服の色合を自由に作る事も出來ますから折角御熟練なさつて御覽なさい。

尙詳しくは其内に追々申しましやう。

美妙齋主人

はからず重き病にかゝりて打臥したるまゝ枕あがらず。

やがて　ゆえん　もの、とは　しれど、すくよろ、の
　ひと、をし　みれば　うらやまれつゝ。

それば、よそ　やみつ、と　かなる　よゐ、の　したに
　なそて　かくや、と　まな　あげく　ろな。

身を　ねぶる　はへ、ぐに　まゝろ　うれしけれ、
　われ、を　とひぬる　その、と　おもへば。

鵜河

夜を　わたる　たつき　なからずば、かつらびと、
　あゞ、ふれ　なさじ　なつ、の　よ、の　つみ。

江螢

なよはね、や　あし、の　は、のぼる　ゆふつゆ、に
　さきだちて、しも　ちる　ほたる　かな。

美妙齋には幼きより唐詩の友なりし何某、いまだ廿年の上を二ッ三ッ超たるばかりにて物故りたりしかば三四篇の詩と共に靈前に手向けて唱歌（舊稿）。

歎の一枝

美妙齋主人

才をこそ、も　諸ともに　すぐれし　物を　はかなく、も
　なりぬ、と　ばかり　菊の　花、秋をも　待たで　散しかぞ。
思出づれば　去年の　今日　瀧野川にて　あひしとき
　その　鬼神も　やはらがん　優しき　手そて　肩を　拍ち
笑を　言葉に　換へつゝも　床机に　腰を　カケアヒの
　韻を　つらねし　事　なりき。それも　今　只　夢の　跡

君が　手づから　持來つゝ　色の　もと、に　植ゑたりし
　八重山吹は　夏も　なほ　折々　花の　さく　もの、を
主は　何とて　實を、だにぞ　結ばで　散りも　行きにけん。
　はかはき　早く　起出でゝ　花に　向へば　花も　まさ
憂を　知りてや　朝露の　なみだ　含める　のみ　ならで、
　其名にも　負ふ　口無や、もの、も言はねば　いとゞしく。

與に　寫しゝ　寫眞なぞ　紀念なれ、とは　おもひきや
　その　俤を　見るからに、昔も　かくも　そくよか、ユ
ありにし　その、を　哀や、と　思へば　胸も　ふたがれて
　見る　目も　くらし　木下闇、そこ、とぞ　分かず　踟迷ふ
鳥やは　何か　鳴か。折も　折とて　うれひ、をば
　むらに、とれ　せで　悲氣に　音信るゝ　なぞ　うたてけき。

悲しき　ふより　得てし　より　葬る　までは　もし、は　又
　蘇らん、も　得知れじ、と　頼甲斐無き　なと　まで、も
頼み、頼みて　アリ明や　曇らで　薄き　つきしろ、に、
　鐘の　音　つらき、遠山寺、其を　聞きしが　名殘にて
草に　潜める　夏虫に　つれて　敢なく　消えにしよ。
　現に　ミルトン、も　姫神に　げにも　恨を述べたるよ。

野生の花薔薇（第十二號の續）

重陽禪師

鳥の　さへずり、蜂の　うた
　木々　草花に　かなつけて　かの　判官も　涙に
語らふ　うち、に　あやよくや
　西に　かゝれる　村雲も　惡き　天氣を　知らせ也。
荊棘の　如き　敝衣
　可愛き　きびす　裸出の　日燒も　暫時　打忘れ、
偶　なたゝる　目元　もて
　さも　嬉氣に　少乙女は　談よ　耳を　かたむけば
遂に　長居を　したり　とて
　表向のみ　遠慮して　かの　判官は　乘去りぬ。
跡　見送りて　さをとめ子、
「あれ　此世の　願には　花妻ならば　判官の」……

殿は わらはに 美くしき
絹を 粧ひ、酒 飲めば 妾を 褒めて 給はらむ。
父は 羅紗てふ 衣も 着ん、
弟は 赤く 塗られたる 船も 流して 遊びなん。
母も けやけき 衣 着けむ。
嬰兒は 日々に 新らしき 玩弄物しも 得なん。
飢ゑたる 者には 物食ませ、
貧き もの、にも 衣 着ん。さらば 妾も 敬はれん。」
山 行きつゝも 判官は
後方を そへりながむるに、少女は 而も 佇めり。
「始めて 見しが 終りかも、
立も 超えたる その 形、尋常ならぬ その 顔、
かは 粧飾 なき ものでしは
妙なる 面 諸共に かしこき 胸は 程 見えて、
いかで 妻とも 爲さまほし。
此身も 今日は 打連れて 野邊の 夏艸 刈らせまほし。

權利よ 義務と いせはしき
盡きざる 言の 爭に 日を 送らんは 懶かり。
牛馬の 聲に 鳥の うた、
靜けき 里に 懷かしき 人の 言葉ぞ 望ましき。

論説

日本の婦人に望む

人の自から制し自から謹む所以のものは何物か自ら恐るゝ所あればなり。或は法律の刑罰を畏れ或は未來の應報を畏れ或は健康の危害を畏れ或は他人の毀譽褒貶を畏るゝ等其畏るゝ所のものは異なれとも畏るゝものあるは皆同し。若刑罰も無く應報も無く毀譽も無く疾病も無くんば柳下惠と雖も能く外部の誘導に抵抗する能はさりしや疑を容れさるなり。婦人の毀譽は亦人の最畏るゝ所にして人間の行爲を左右するに於て大に力あるものとそ。牝雌の愛を惹く能はさるものは生存競爭に敗れて其種屬を保續する能はさるは動物學の原則なり。人間に至ては固より男女の關係而已に由て勝敗を決す可

きもれふ非そと雖も遺傳れ久しきに依り婦人の愛を求め婦人の好評を得んと勤むるハ男子の常情あり。百萬れ敵を見て一歩を退らさる猛將も四隣を圍繞する强國を屑とそせさる大政治家も婦人れ一顰ふハ其身の自ら戰慄するを覺えざるべく朝三暮四の生計ふ困む貧民そ一年四時病魔の攻擊に苦む病人そ婦人の一笑にハ九尺二間の裏店と病室とに極樂淨土を發見すべし。義貞をして軍機を失はしめたるそ勾當內侍なり。那翁をして無事ふ「マルタ」より「マルセーユ」に上陸するを得せしめたる「子ルソンの失策も「レヂー、ハミルトン」より起れり。彼歐州の中古封建時代の武士が婦人の頤使する所とあり婦人の一言一笑を得んか爲粉骨碎身を屑とせさるを見るも亦婦人の勢力極めて大なるを知べし。婦人の勢力斯の如く大なり、婦人ハ如何なる方向に此勢力を利用せんとするや

夫れ婦人ハ德性の强きものなり。男子そ其性豪邁にして細事ふ拘泥せず且其接する所の境界も廣く困難そ多きら故ふ往々細瑾を顧みさるを名として意外の惡事ふ陷るものあり。女子ハ其性緻密にして感情の銳敏なる男子の比ふ非す。不幸を見て慈悲の心を動かし事ふ當て躊躇忍びさるの情ゐるハ女子の常なり。蓋し男子そ智、情ふ勝ち女子ハ情、智に勝つものなり。道德そ亦一の感情なるか故ふ之を感すると女子に多くして男子に少あきも固より故なきに非ず。尤も自ら抑制するの力は男子に多くして女子に少なきは勿論あれ共普通の場合ふ於ては女子ハ道德の感情男子より强しと云ふも蓋過言に非ざるべし。殊に他人の道德を批評するふ至てハ其感情の銳敏ふして深切なるハ疑ひなきとそす。故に現今米國ふ於て社會の道德上の風潮を左右するハ女子の力にあり男子ハ「万能の金貨」を追ふに汲々とし道德の風潮に關してハ殆んど全く關係あしと聞けり。又歐州中古封建時代の武士か婦人の頌揚を受くるを以て其最大名譽としあるは即ち婦人ゞ以て道德の裁判官となしたるものなり。日本の婦人は是迄深窓の下に呻吟せりと謂ふと雖ども其隱々裡に有する勢力の强きと感情の銳敏なるハ西洋の婦人と異なる所なかるべし。日本の婦人ハ如何ふして此勢力と感情を利用せんとするや。

今日日本の道德ハ完全無缺なりやと問はゞ否然らずと答へさるを得さるべし。下流の人そ暫く措て問はす上流社會ふ於て猶往々謂ふに忍びざる醜聞の源となるとあるは實に嘆するふ餘ある事共なり。歐米諸國と雖ども不道德の人なきふ非す或は却て多き者ゐるべしと雖も一ハ私かに之を行ひ一は公然

之を行ふの差異は蔽ふ可からざるなり。　古來男子の道德は主として社會公衆に對する行爲に止まり其私行に至ては殆んど之を顧みず。　甚だしきは私行の極めて謹嚴なるものを目けて無用の人物となすの習慣は今日に至る迄猶日本男子を束縛するが如し。　故に偶々一二の醜行を爲すものあるも其罪一二の人に在らずして實に日本の社會に在り。之を防ぐの法も徒らに一二の人を責むるに在らずして日本の社會を責むるに在り。社會にして其醜行を許す間は醜行を爲すもの陸續踵を接す可し。假令一二の人を日本外に退去せしむるも社會全体の力に依て退去せしめたるものに非ざれば決して其効を奏する能はざるなり。社會が不德を責むると英國人の「チヤールス、ヂルク」に於けるが如く之を社會の外に擯斥するに非ざれば假令一の「ヂルク」をして其位を去らしむるも復第二の「ヂルク」を生ずべく其勞恰も彼の圓石を山上に推上げんとする希臘の神に異ならざるべし。然れ共日本の男子は前にも陳べたる如く數百年來の惡習に浸染れたるものなるが故に今後大に敎育の普及する迄は大に望を屬するに足らぞ。何となれば山に棲む猿は山を見ず海に住む魚は大海の何なるを知らざればなり。只此に余輩の大に望を屬するもの有り。日本の婦人社會是なり。

男女の間に道德の區別を爲すは各國皆同じと雖も日本は其最も甚だしきものなり。　一方に於ても男子の道德は緩漫に過ぐる程緩漫なれ共又一方に於て女子の道德は嚴密に過ぐる程嚴密なり。男子は如何なる淫欲を逞しうするも可なり。女子は濫に男子と語を交ゆ可からず。男子は其妻を毆打するも可なり。女子は其夫に對して一言も抵抗す可らず。凡そ此類の事一として男女の間に非常の懸隔を置かざるものなし。此嚴密なる道德敎の下に養成せられたる婦人なるが故に其偶々不德の事を爲すものあるも固より男子の如く公然之を爲すに非ず。之を要するに日本婦人の道德は假令偏屈に失する所あるにもせよ之を男子の道德に比すれば數十等の上に在りと謂はざるを得ず。是に於て余輩の日本婦人に望む所は彼の強大なる婦人の勢力を利用し其鋭敏なる感情を以て男子の品行を裁判し尊敬と擯斥との兩武器を以て男子を賞罰せんとするに在り。尊敬せらるゝものは其賞を得て愈々進むべし。擯斥せらるゝものは其罰を得て自ら悔悟すべし。是實に婦人の社會に盡すの義務なり。或は謂はん日本の婦人は男子の不德を見るに慣れたり男子の品行を斷ずるに鋭敏なるものに非ずと。余輩の眼を以て之を見れば然らず。凡そ人は己の地位と比較

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

して他人を判斷するものなり。已貧あれば他人の富を羨むと強く己賤ければ他人の貴を羨むと甚らしくして其極遂に富貴の人を疾むに至るとあり。彼の虚無黨の如き是なり。日本の婦人は決して男子の不德を嘉しさるものに非す。己の狀態を顧みるも決して此の如きとあるの理なし。只道德教に束縛せられて之を默視したる而已。故に此一點は余輩の希望を減するに足らず。知らず日本の婦人は余輩の希望に孤負かざるや否や。

十分に自ら滿足する人は十分に無用な人。

新編紫史第一

誠之堂發兌

此の書の扣子に「新編紫史一名通俗源氏物語」とありて肩書に「本居豐穎大人閲、增田于信譯」とあり。凡例に「註釋にあらず評釋にあらず唯世人通讀の便を圖りて物したる者なり云云、源氏物語の如きは吾が國古來の一大奇書にして當時文華の盛なるを誇るに足るべし云云、人々翻閲考証に煩ひて終に高閣に束ぬべし、されば書を耳にして文を目にせざる者多くて終に我邦固有の國粹をも發揮する時なからん云云」其の文体を原書と比較すれば

何れの御時にか有りけん女御更衣數多候らひ給ひける中に最やむごと無きはにはあらぬが勝れて時めき給ふがありけり。　以上原書。

何れの帝の御時にかありけん女御更衣ども數多候ひける中にいと尊き身分にはあらねど人より勝きて寵愛し一人の更衣あり。以上紫史。

是れにて一般の体裁も分かりませう。即ち原書の文を何處迄も土臺として、なくて語尋にて分からぬ處には語を加へ、無くてもよい語をば省き、古びて六つかしい語には漢字を嵌め込みなどした者で、扨文の極六つかしい處は一寸結搆を改められた處も折々見えます。

語を足して見せる法は先哲（守部等）も屢用ひられた事で至極面白い事です。併し先哲のは括弧の中に入れて見せる事故原文はチヤント保存してありますが、紫史は凡例にも有る通り原文を存する積りは有りません、それ故表題にも譯と有ります。さればとて原文が常に土臺となる處を見れば譯者一家固有の文とも見えず。若し一家の文ぞと云はるゝならば一種嫌ふべき雅俗古今混淆の体です。否、よく混淆せざる体です。去て見ればこの書は獨立しても頗る原書の色香を失つた者で原書の面目を見るに足るや否やは甚だ疑はしい。去らし品格の下つて居る事は凡例の中にも御斷に成つて居ります。御斷りに成つても恐るゝ事は矢張恐るい。全篇脚色で勝ちを取る小説ならば譯文は粗末でもまづ我慢が出來るが、源氏の如く脚色無しの小説に此法をあて箝ては面目の過半を失ひます。若又源氏の註釋の代りに用ひたならば文字の解釋が一一親切

なる譯よも參るまいし、其の上に原文の語路が殘つて在るゞけ幾分か面倒で、到底正則の註解よは及びますまい。

獨立させやうとすれば瑕があり、原書の註釋としては不足なる、どちら付らずの物ですから、我れ我れは此紫史ふ敬服する事は出來ません。しらし當時の急がしい世界よは、チョイと源氏の筋を覺ゑて、中古の單語も二つ三つ覺ゑて、そして「抑日本の文章ハ冗漫にして　オホン………」抔と大見識を立てやうと云ふ學者がベタ一面に有ります、そあに至ては田舍源氏丸でいかず、忍草でも十分ならず、註釋を調べるハ面倒、新編紫史……成程……有難い。紫史は文藝に益あるを見ずと雖、俗人を益する所わるべし。紫史も不朽の書に非ずと雖、時を濟ふの一具たるハ疑ひ無し。蓋し譯者も亦是れにて滿足せらるゝなるべし。

序でに一言申したきハ近頃雅俗古今の混淆を普通文の改良と同樣と考へる族が有ります。夫れも甚心得違ひて、雅俗は化合させるがよし、混合させるも惡るい、増してやゴロゴロ一塊づつに成つて居るのは尤惡るい。或る生ハ「オッチチイ」を面白い事と主張しますけれど夫れハ用ひ處が違ひます。

餘計な世話らハ知らんが紫史ふは誤譯が折折見えます。箒木の巻に、「猶しばしの間退出を試みよ。」即その一つてす。是れは原文に「猶しばし試みよ。」ある處で、その意味ハ「禁中の養生を試みよ。」と譯すら、少なくも「退出を待ち試みよ、とあるべき處でハありませんか。譯者その人と云ひ、校閲者その人と云ひ、誤解をし給ふべき譯は無し、唯粗漏の責めハ免れ給ふまじき處がまだ有る樣でそ。

本文の評御目留まりますれば總論を御目に掛けまそ。總論の初めに源氏時代の風俗を載せられゝは頗御注意で、大方難も無し、讀む人の爲めには至極宜しい。風俗の次ぎハ總評で是れには少し小言が申たい。先づ第一に總評の置き處が惡るい、此處の仕組みが善いの、彼處の寫し方が旨いのと云ふハ一通り源氏を讀んゞ者で無くては分らりません。ましで紫史を買つて讀む樣の者には實に馬耳辟香です。それ故總評は卷末に置らなくては折角の御心配も水の泡、跡で讀み返す人は多分有ますまい。

第二に總評は誰れやらの說ぶゞと斷つて有りますが、誰れの說にしても甚まづい。源氏の君の盛衰を述べたり、種種の人を書き分けたり、年齡に隨つて書き分けたりして有る處を指して一一何何の法則と唱へたるが傍痛い。餘計な事ゞが近頃出來ゝ珍しげに感服するハ猶猶をかしい。源氏物語講義とやらに章法、句法、抑揚、頓挫何や蚊やと恭しく感服しゝも此の類です。あれハ當り前の事で法則と云ふ譯でもなし、感服すべき事でも無し、あんな事をエライといふのハ即日本人の無茶苦茶に古を貴ぶ癖です。それらして出來合ひの洋學者抔が忌ま忌ましがつて源氏などを罵詈するのです。本居宣長先生の玉の小櫛以來ロ勸善懲惡などふあ宏付ける者は絶えましゝら、文章上の妄信はまだ絶えません。

志らし當り前有るべき事としても善く出來ゝ處も勿論感服して宜しい、感服は御隨意なれど感服の仕方がチトをらしい。まづ正對副對などと名を設けて人物の對を取つて見せられたる處ハ隨分精細に行き渡っゝ樣ゞが、大概間違って居まそ。譬へば玉葛と浮舟とを對なりとし源内侍と近江の君を對なりと云ふ

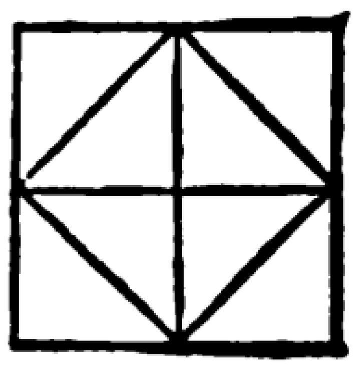
が即大なる間違ひの一つです。本統は源氏の拾ひ子なる玉葛と致仕大臣の拾ひ子なる近江の君を對せしめ・玉葛を賢まく書き、近江の君を馬鹿馬鹿しく書いたる明暗法で、且つ是をで以て致仕の大臣が夕霧の大將につらかりし欝散を看客に與へたる紫式部の才筆です。花やかなる玉葛と同種類の浮舟を並べたり、馬鹿な近江の君に同種類の源内侍を並べ 而も各對の兩人各關係無き杯は美術の意では有りません 其他皆この通りで分類とは云ふべく、對とは申しにくい。箇樣な愚說を其の儘掲げられた譯者の心が知れません。

瑣細な事ですが總論二十八頁ある中「さて」を以て初まらざる「パラグラフ」三つのみ、切切耳に障ります。

おまけとして附屬物の評をすこし。華族樣の題字及び歌は御兩人とも御上手で御座ります。文學博士從五位末松謙澄先生の序文は一本參らう。先生は源氏物語を大層わるく云はれますが、先生などが振子の反動をしてはいけません。博士は再れ再れ書生の標準です、議論中正にやつて戴きたい。殊に文理が六つかしい杯はソリヤ先生や吾れが讀むからむつかしいのです。當時の人は門院を始め來り皆んながよく讀みましたとよ。

其の他感服せん處が多いけれど、今日は源氏物語の評をするので無いからマアよしませ。そこで先生は紫史の綴字句讀の法に付いて幾分か御褒めに成つた樣ですが、紫史の句讀は矢張或る人の所謂「不魚句讀」ですが、それとも何か進步して居る處が有るか知らん。綴字とは何の事やら分かりません、切箇樣にわけも理窟も無い序文などは漢文でおどかすも宜しいが、一体博士などの序文は(もしも價ある者であるならば)皆通文にして貰いたい、殊に紫史を買ふ程の人の爲めには猶更。その次小中村氏のお世辭は評なし。譯者の自序は一通りにて夢物語は自から藤原時代の寐言に似たり、結末「入る方の月」には流石源氏の面影がありまそ。その次ぎに掲げられたる英國諸新聞の評は元是れ末松氏の英譯の書を評したる物なれば(英譯の出來方に依ては)源氏物語にさへ直接の榮辱ありとも斷言し難いのに紫史の譯者が卷首に掲げもて本書の榮譽を表すとあるは「張公酒を飲んで李公醉ふ」に似たり。

餘興



(一)　上の圖を一筆書にするにはどうしたら好うムいましやう。但し紙から筆を離しさへ爲さいませんければ、どんな事を爲さつても宜しうムい升。

(二)　方形謎　第一、陶器の名、第二、鳥などに屬する物第三、澄むの反對。

出題者　崎山人

(三)　はじめは四本足。中頃になッて二本足、末になつて三本足になるものはなアに。

出題者　美濃　撫箏女史

(四)　妾の容姿はみにくけれども常に貴人雅客に愛せられ暖かな臺の上で音樂を奏でます妾の名を何と申しますか。

出題者　函館　松廼舍緣

(五)　蓋ありて底なく至極重寶なもの

皆さんの方へは「いらつめ」十五、十六號進呈九月九日堅く〆切。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

第十三號謎の答。

第一　孔穴、

第二　ガラス製の鏡。

第三　水中に投したる測深錘（サウンヂングライン）(Sounding line)

第四　海水。

此回も澤山の解草を寄せられまして有り難ふ仕合せでムいます。第一第二第四先々無難の分が多うムいましたが第三は殘念なことは十分な解を得られませんでした。や、理窟らしいのは槓杆と解き釣瓶繩と解き年賦金と答へ旅人の財囊と判せらるゝも有りまして肝腦を碎られましたる處が見えます。何故是ら不十分ぞと申ますと如何ほど槓杆が長くなりましても支点と重点との間が長くなれば輕くはなりません。よし支点と重点との位置が定まつたものとしても長くなるものは木梃其物で輕くなるものは木梃に擧げらるゝものです。車巻釣瓶の繩と云ふも槓杆と全し譯で輕くなるのは支点と重点の距離が短くなるからです繩の長さは定まつたるもので長くも短くも出來ません年賦金といふも旅人の財囊といふも長くなるものと輕くなるものと品物が丸で違ひますから矢張これも不合格です。測深錘と申しますは船の水先人が水の深淺を測るもので鉛の錘に線を付けたものです之を水中に投れたときには長くあれはある程輕くなります。水の壓力のことを御存じあらは直に解りましやう。此回寄せられたる解草百五十一通の中第三題を槓杆とか釣瓶繩とか解かれましたのは左の通りです此答は中らすと雖も遠からそでそうら十五號を一部づゝ差上ます

▲倉知香織▲府瀬ひさ▲倉矢そう子▲松原伏子▲河邊傾▲松尾ひさ▲高宮哲二▲烏海みつ▲水下みつ子▲任實▲鬼隆女史▲谷鳳舍起畝▲花廼家とう▲倉田啓子▲山中とめ▲松橋友子▲岩本一枝▲工藤今朝女▲若塚彦造▲松田小直▲舘野松枝▲閑山悠水樓主人▲末廣家▲伊藤基之▲高野生▲山中正雄▲那須飛子▲北澤とく子▲吉澤猪三郎▲星野美子▲引板鳴子

此たびは歌書の解草を贈られましたのが十二通ばかりムいませそが悉く載せる譯に參り兼ますから秀逸ぶけ掲ぁませ、

いらつめ十三號謎の答　　那須かね子

飛驒山の匠の子らが手あそびに木きれにあけし孔のこゝろも。

さぎとありからすともなる君の身が神のあやしき力うけてや。

車井の繩にまとひし朝がほをとかぬもうしやとくもあやあし。

わたつみの波のそこひの深くとも龍のあぎとの珠をとらばや。

月報

○東京府女學去月二十六日の官報に昨二十年東京府學事の概況を示されたるが其中ち高等女學に關そる分左の如し

高等女學校と稱そべきものは前年迄は一校もあらさりしが本年に至り私立各種學校中修身和漢文英語算術唱歌裁縫理科等を教授そるものにして高等小學科以上の程度に位そるものを高等女學校に變更せり其校數八生徒九百名にして學業は漸次進步の狀況なり教員の資格は別に一定の規程なきも孰も高等の學術を修めたる專門の教員なり今日女子の高等普通教育に不便を感ずるの際此種の學校は最必要なれば何ほ其教育方法を改良し且其增設あらんことを望む。

○高等女學校　ハ本年規則の改正により四ヶ年の學期は五ヶ年となり生徒をも六十名增員せしに付是迄の建物にてハ何分狹隘なるに付き百二十坪の新築を爲し來九月十一日まではハ竣功せらる見込なりと云ふ猶ほ本年よりハ博物陳列室手藝教場等をも新築せしむる趣なり。

○文部大臣の演述　去る十二日東京高等女學校卒業證書授與式に於て森文部大臣演述の要旨ハ左の如くなりと。

本日卒業證書を受けたる諸子に向ひて一言せん列席の教員殊に女教員も亦能く之を聽取せられんことを望む」政府に於て此東京高等女學校を設置し且つ之を維持するの相當なる入費を支給し以て成るへく其完全を期する其旨意果して何れにあるか先つ之を述べん抑々國家は男女を以て成立し而して國家の教育とは其半ば女子教育を謂ふなり此校を設置する政府の意は推して知り得べきなり然而して教育の要如何を問へハ女子教育は男子教育に比して更に重すへきものあり蓋し賢良なる女子にあらされは賢良なる慈母たるを得す而して人の性質を賢愚何れに赴かしむるに概して慈母之を養育する如何に縁す女子ハ實に天然の教員なり天然の教員なる女子の教育にして充分ならさる間は不具なる教育たるは言を須たさるなり若し女子にして母たらさるも妻たらん妻たらさるも女子として社會に列し國家の一部を爲すものなり而して其母たり妻たり又ハ一女子なるに拘はらす女子の風采行爲ハ全社會に影響を有する至强至大なるものにして其教育進步せされば國家全體の文明ハ決して望み得へきものにあらさるなり」女子の國家に對する責任の重大なる斯の如し而して能其責任を盡し得へ

き女子の模範を陶冶するは國家の必要に屬す是れ政府か此高等女學校を設置し全國をして之に則とらしめんと期する者なり本校の職員ハ能く其旨意を領して校務に從事することあれとも何念の爲めに斯く言ふ者なり次に日本現今の女子は特に困難なる地位に居ることを述べ以て諸子に望む所あらんとす」特に困難なる地位とハ則ち日本に於て昔日に之なくして今日にのみ之あり今世に之れあるも後世に之なきことならんと思ふ所のものにして而して歐米各國に於て未た曾て經歷せさる所のものなり即ち數個の夫婦一家をなして其生活を共にする習慣將さに變更せんとする時運是なり蓋し日本の舊家の習慣として女子の許嫁するや多くハ父母の決する所に由る而して既に婚姻するや十の八九は舅姑と宗家を同くす加之其生計の權柄は舅姑之を握る但或少數の部分の人ハ舅姑と宗家を異にして生計を別にするの新法を行ふものあり想ふに此方も追々廣く行ハるゝならん然れとも恐らくは尙ほ數十年間ハ舊慣行はれ之を改むること甚た難かるべし而して此事情ハ今日卒業諸子の如き妙年の人にハ未だ了解し得さるべしと雖も年長の後は必す余の言を思ひ出すことあるべし昔日の女子其舅姑と宗家を同くし生計を共にして濟み來りしハ必竟昔日に於てハ女子皆同一なる境遇に居り縱令雙方困難なる事情ありしも互に相容れ得たるならん然るに今日の女子ハ舊例故格の何たるを知らす頓に現今の日新開明の世に遭遇し殊に學校の恩惠に由りて稍々女子の本分を講得し又妻となり母と爲り一家の經濟より交際の要國家の務めまても學び知るに至り昔日の習慣に成長しさる今日の年長則ち舅姑の地位に居る者は概して今日

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

開明の事情に通せす故に嫁の知るもの姑之を知らす姑の知るもの嫁之を知らす方圓枘鑿相容れさるの觀なきにあらす此の困難なる時運に處し一家の生活をして圓滑ならしむると圓滑ならしめさるとは要するに嫁の心得方如何にあり若し一旦舅姑と事あるにより嫁の方に於て舅姑教育を受けさりしも此をしきの事ハ辨知し居るべき筈なりとして相爭はゞ一家の風波立ところに起るべしされは嫁の受けたる本日の教育ハ反て一家の風波を起す資本となるなり若此學校の卒業生にして斯る不心得の者ありたらんにハ爲めに此學校の名譽を損するのみならず亦本日舊世新世轉變の大事をも害するに至るべし故に苟も此學校の卒業生たるものは身を處するや嫁しても舅姑に對しては昔日の舊慣を忍守する決心なかるべからず而して本日忍守の辛苦は則ち他日善良なる新日本國を建るに必要なる基礎なりとの眞理をも辨知して其爲にハ己を犧牲に供すへしと決意する所あらさるへからずされは今後數十年以內に於て身を處すへきの地位に立つ女子は忍耐に忍耐を加へ其忍ふきを忍ふハ勿論忍ふべからさるをも强て忍んで一家の風波を起さゝる樣に勉めさるべからず是余が本日の女子ハ特に困難なる地位に居る者なりと云ふ所以なり然れとも斯る辛苦ハ實に其中に無限の幸福を生し反て快樂を買ふの資本となるものなり其理合は今詳說するに遑なし諸子之を講究せば必す了解することを得べし」本日は此學校に取り諸子の身上に取り祝賀すべきの佳日なるに前述の如き苦き事を以するは甚た不都合なりとの念を起す人もあらんか然れとも本日社會舊新混同せる時代に際會し而して將さに前に述べたる困難なる地位に立さんとする所の諸子は之を不幸と云はゝ云へ若し深思せば此地位ハ昔日になく後來になく外國にも亦之なき地位なれば所謂空前絕後の地位にして此地位を占るに足るへき素を得ゐる本日の卒業諸子に取りては此卒業式ハ至大の榮典なり請ふ諸子余が意の在る所を熟考せ。

○高等師範學校女子部卒業生　同校にて去月十四日女子部生徒の卒業證書授與式を執行しゐり卒業生は野本とら子根本ゑか子佃なほ子西川かめ子近藤みち子前野きよ子福島ちか子淺岡きく子仙頭いさ子名草ふさ子關すゑ子の十一名なり。

○哲女館　青山御所表御門前なる同館ハ創設日尙淺きも生徒數ハ既に百餘名に及び講堂寄宿舍等追々狹隘を感し目下同館新築の地所を撰定中の由なり同館內外諸女教員の外理學士吉岡哲太郎氏の理化學講義醫學士三浦省軒氏の衛生學講義老儒石川鴻齊翁の烈女傳講義等の如きは最も貴婦令孃に有要なる學科なりと覺今度ミス、スウィフト島田豐島田弟丸(英學科)山崎たか子(漢學哥學科)等の諸氏も同館教員に聘せられたる由。

○千葉女子教育談話會　去月十六日より十八日迄三日間千葉縣尋常師範學校女子部に於て同校卒業生の第五回教育談話會を開き教育上の相談管理授業の質問校長教員の談話等ありしと云ふ。

○子守の就學　山形縣飽海郡山寺尋常小學校授業生日下部辰藏氏の主唱にて有志者の賛成を得全校內を借り子守りの教場を設け每日生徒退校後三時間づゝ讀書算術習字修身等を懇篤に教授さるゝより漸次子守生增加して目下三十名斗りに至りし由。

屋根の拵方　近頃ハ亞鉛張り或ハ馬口鐵張りの屋根が殖えて參りましたが是れハ衛生上より見れハ憂ふべきことです。西洋でハ石膏で塗込んだ屋根もあります石膏の粉を煉りまして屋根に塗りますと直堅く石の樣になります(ランプの口金を付けるのも此石膏の粉です)から頁く空氣を通しません。當時は何事も西洋の眞似をいたしますからかやうなとも流行るかも知れません。其害を知つた人は心掛けて用ゐぬ樣に致したいものです。大厦高樓に住む人は屋根の構造の爲に左程の害を受けませんが下等の生活を送る人には隨分立て歩けぬ頭を打つ樣な窮屈な屋根裏に住むものもムいます。かやうな家の屋根をブリツキ張などにいたしましたらば隨分大した害となります。然し火事の爲には之と反對です故ふ万物一得一失。

家内間取の事　社會が學者や富人ばかりの寄合場所ならば衛生をやかましくいふ必要はありますまい。けれども社會は上等の人よりも中等以下の人が多いから自然と不潔な家に住むものもあり不消化物を食ふものも出來ましてそれから惡病の流行となり上等の人にまで其災が及びます。そこで衛生の必要が起ります。ゞから衛生は上下貧富の區別なく行はれるものでなければなりません。もし下等社會に迚も行はれぬ樣の物あられそれまで衛生は上等社會の贅澤物となりますかやうな衛生は有ても無ても同然です。今家内の間取の事を衛生上より申せば如何なる活計を立る者でも居間と寢間と臺所丈は別々に設けなければなりません。かやうに申しましたならば裏店世帶を見よ九尺二間の棟割長屋には唯一間ありて晝は居間に充て夜は寢間となり食時には臺所と變するは一般下等社會の有樣なり然らば今汝が云ふ處も矢張贅澤の談にあらずやと難ずる人もありましやう。成程尤な申分てはありますが三間を別々に設けるとは言ふべくして行はれぬといふやうな六ケ敷談ではありません畢竟是迄かやうな事には一向無頓着であつた仕來が殘つてをるからです。又かやうな家に住むものハ自分の持家でハありませんから家主たるものハ世の爲を思ハゝ建築に注意しなければなりません。中等以上の家にハ居間、寢間、臺所、の外に客間「小供部屋、仕事部屋の備なくてはありません。仕事部屋を別に設くる譯は針仕事をする部屋の微塵は小供には毒ふありす別して近來は毛織物を多く扱ひますから尚更です。間數は大抵之にて用が足りますが間取は衛生上に大關係のあるとで最大切です。大抵の家の間取を見まする日當りもよく廣くもある部屋は必らず客間といたし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

日當あしく狹き部屋ハ必らず寝室となし甚しきは居間となし小供部屋となすのは通例ですが。是は甚だ間違つた事です。何故なれば居間は終日起居する部屋ですから日當りの最よき最空氣の流通よきものを撰ばなければなりません。之に反し客間はホンの來客の接待の間這入る部屋ですから永くて一時間通例は十分か二十分間位のものです。だから客間には北向の狹き部屋でも差閊はありません。又寝室は終夜睡眠する部屋ですから成る丈晝間日當りよく空氣の流通よき部屋に定めなければなりません。又小供部屋は大切な小供を育てる處ですから居間寝間よりも尙一層の注意が必用です。　空氣の流通不十分な薄暗き部屋で育つ小供は中中活潑健全なものはありません。そこで家中の最良き南向の部屋は寝室、居間　又は小供部屋に充てねばなりません。　玄關　客間の如きは北向で十分です。又水口の日陰にあるものは終年乾くとはありませんから臺所も日當りのよき方に定めねばなりません尤惣ての漬物類を貯ふる部屋ハ別に北向に撰びたいものです。　又便所の位置ハ鬼門にあるを嫌ひますが衞生上より申さば日陰ならば鬼門でも差支へありません。

室内の空氣

人間が呼吸をするときは一度に三合位空氣を呼き出します。之を廿四時に積れば二石五斗二升の空氣を呼き出します。ですから若し空氣の流通がわるければ直に炭酸ばかりになります。炭酸が空氣千分の一位のときは害ハありませんがそれより分量が增すと害になります。　尤も當今では醫者の學問も大層開けて來て炭酸の澤山ある空氣でも左程害のないことを發見しました。ハンモンドと云ふ醫者が人の澤山居た室から炭酸と水蒸氣（是は人の身体から斷えず出ますから人の居る所には澤山あります）とを取り去て其室の中に鼠を入れましたが鼠は死ました。　毒な炭酸を取り去りましたからほかになにか毒な物があるに相違ありません。　或醫者は炭酸を取るにしろ最初人が居たとき酸素を吸ひ取たから鼠は酸素の欠乏から死ぬのだと申ます。　けれども酸素が空氣中通例の三分の一位になりても左程害がないとは度々試驗をして分てゐますから强ち酸素の欠乏からとも申されません。又或醫者は水蒸氣の爲に死ぬのだと申ます。　なるほど人間は毎日二百六十六匁の水を口や皮膚から出しますから室を閉ておけば多人數居た室なら隨分大した水蒸氣が有でしやう。水蒸氣が空氣中

に澤山あると濡れた手拭がもはや水を吸はぬと同じで空氣も身体から出る蒸氣を吸ひ取りませぬ。吸ひ取てくれなければ身体の加減が變つて死にます。尤も水氣が空氣にあるとれ是非必要です。空氣百分中六十五の水がなければよい心持ハせぬものです。冬分ストーブの上に水を置くのも室の乾き過ぬ爲めです。　前申した炭酸ハ毒物に相違ありませんが、チマルクエースと云ふ人の試驗した處でハ空氣四の中に炭酸一混ぜて動物を入れたるに動物は生てゐました。　又酸素の不足なのは害が有には違ひないがノーワク、ゼーゲンの兩氏が炭酸を取去て酸素を十分入れたる箱に動物を入れらるに動物ハ死ました。去て見ると酸素があれば死なぬ。酸素が減るから死ぬとは一概に申されません。　然れば炭酸や水蒸氣や酸素の増減するとより外にわるい者があるに違ひありません。

人が澤山ゐると變な臭氣があります。よくハ解りませんが其内に毒な物がありて恐らく虫だらうと思ひます。　何故と申すに戸外の空氣より戸内の空氣の方に澤山バクテリヤが居ます。これバクテリヤのみでなくペッテンコール氏の説によれば水蒸氣が空中に十分含まれますと体内から隨蒸氣を最早吸ひ取りません、　水蒸氣が發散しなければ体内の蒸氣と亦發散しないで体内に溜り之が所作をして死ぬのだと申しましたが信ずべき説です。室中の空氣の毒な證據には病身な人が人の澤山群集してゐる芝居か寄席に行くと心持がわるくなり頭痛がして熱が出て來ます。若し毒でなければかやうな事はない筈です。

惡き空氣の害　わるい空氣の毒は大しる者で空氣のわるい處には肺病や發疹チブスが流行します又瘰癧や結核なども空氣のわるい處には多いです。尚手近の例をとれば空氣がわるいと創口が早速愈えませぬ。近頃ハ消毒劑を用ゐますから創口は早く愈りますが若し空氣がよいか又ハ充分に消毒すれば創は膿を持たずになをります。尤もわるい空氣に一度や二度觸れたとて眼に見えるほどな害はありませんが點滴の水が遂に石に孔を穿るも同じ譯で漸々に害を及ぼします。　梅毒などは病人の身体に觸れなければ傳染しませんが痲疹や天然痘も空氣が媒介となつて傳染します。　ですから病室は後で充分消毒せねばなりません。特にヂフテリヤ此病人のゐた室も永き月日經ても尚病毒が壁の内などに殘てゐて他の小供に傳染することが有ますから念にも念を入て消毒し無ては成ません。序に消毒法を御話しましやうが夏コレラの流行する時などには

百倍位の石炭酸を霧吹や含水吹で吹きますが是は藥店への御奉公でナンの益にも立ちません。唯氣休めの効があるのみです。強い石炭酸の中に衣服を浸さなければ効がありません。ですから病毒を消毒するに二百倍の石炭酸を少許吹いたからとて到底無益です。一番手輕で一番効のある消毒法は硫黄を燃して一日か二日其室を立て切ておけばドンナ病毒も退治ができます。

室の高　天井が低いと考が小くなり薄暗き所に住むと惡心を起し易いのと反對で光線のよく透る明い室に居ると心が自然と活潑になり、天井が高いと心が自然に氣高くなります。若し疑惑あらば低天井の下に二三日も住ひになればわかります。其の上天井が低いと夏ハ大層熱うムいます。衛生から申すと天井は九尺より低くてはいけません。是は近頃學問上から考へ出した高ですが實に奇態なとは日本の室の高は大抵九尺です。學問の道理も知らずに衛生學で必要ぢと云ふ九尺によく合ふのは何故でしやう。是は必要から起るので九尺でなければ住みにくいからです。學問は知らずとも必要は追々學問によいとする方に導くものです。度々申ますが日本風の衣服なり食物なり必要から今の様になッてきたのです。必要から出來上た衣食住を捨て一足飛によしあしも定めず西洋眞似をするのはけしからぬ振舞です。學校や病院の室は二間以上なくてはいけません。高い天井は必要ですが室の廣は一疊敷で天井が二間も三間もあればよいとはいきません。室は家内の人員に應じて廣くし高さハ其室を用うるの目的に應じて高くせねばなりません。

室内通氣法　室内の空氣を換えますとは前に申た通必要ですから通氣法を御話致しましやう春夏は自然に空氣が流通いたしますからよいですが秋冬ハ寒いから室を四方を立籠めておきますから是非仕掛けがなくてはいけません。まづ通氣法に第一必要なとは室内から不潔物を去るとです。どんなに空氣の流通をよくした所が室内に不潔物がありてはなんにもなりません。塵埃を積らぬやう汗染みたる衣服をおかぬが肝要です。衛生學を少許カジッタ衛生の半可通ハ空氣の流通は衛生上極必要ぢなどと云てなるほど空氣の流通にはよく注意致しますが室内は塵垢ダラケで襤褸もあれば汗衣服もあります實に笑止千萬です、寧ろ空氣は換えずとも室内を掃除する方が宜うムいます。

人間に必要な空氣の量

一人の病人にても一時間に三百三十石の空氣が必要です。前申す通空氣が乏しければ創は容易に癒えませぬから特に外科の病室などは五百五十石の空氣が必要です。さて通常壯健な人には二百五十石の空氣が是非必要です。さて淑女方に御記臆なさる御用もありますまいが序に申せば牢屋には二百五十石學校には百廿石寄席や集會所には三百六十石仕事場には五百五十石の空氣が一人一人に有のが必要です。これで見ますと學校にては大層少いですが學校では長く續けて稽古するものではありません一時間毎に十五分の休息がありますからそれでこそ百廿石ばかりでよいのです。平常起臥する室には是非とも三百卅石の空氣が必要です。さて此の數は御存知なくてもよいですが割合位は御心得あるがよろしい。

さて一時間中人間に必要な三百卅石の空氣を得るにはどうすればよいかと云ふに空氣を流通させるより外に仕方がありません。通氣法に二種あります。第一は自然通氣法第二は人工通氣法です。

自然通氣法

室外の空氣は冷て室内の空氣は暖ですから天然自然に空氣が室内に出入するのが自然通氣法です第一壁や窓から這入ます。又外を眺める爲に窓や障子を開くと其とき空氣は這入ります。又西洋造の家ではストーブを焚きますから之で室の空氣は大層出ます大きなストーブですと一時間に四百五十石以上も室から出て行きます。英國では主に之れで空氣を換えます。どうして換ると云ふにストーブの中の空氣は暖ですから下より冷い空氣が這入暖なる空氣は煙突から逃げます。すると室の空氣が減りますから室外の空氣が這入ります。偖て外の空氣を室内に良く入れやうとするには互に相對つたる窓を二ケ所明けておくがよろしい。

人工の通氣法

前々より述べましたる通り人間に必要なる新鮮き空氣は中々大したものでムいますから室内の空氣は自然に任せて新陳の交替をさせるのみにては不十分です。そこで人工の通氣法が必要でムいます。此には二通りの方法がありまして一を吸出法といひ一を注入法と申します。吸出法は室内のあしき空氣を吸出すの仕掛にて室内の上部より屋上に通氣筒を設け筒の内に小さきランプを入れおきますればそれでも十分です。此の筒の中の空氣が火氣の爲めに溫まりますればドンドン外方へと出行きます即はち室内のあしき空氣は通氣筒より出去りまた其の室外の空氣が室内に押入ります。かやう

ヿして新陳の交代が出來ます。さて時候のよろしい時なれば是で差閊はございませんが冬分には室外の冷き空氣に押込まれては隨分閉口な譯ですから新空氣の直接に這入る室にて一旦之を煖め然る後居間へ通ふ樣に務ねはなりません。又注入法はあしき空氣の滿ち居る室內へドシドシ新鮮き空氣を注入れてあしき空氣を追出す方法です。是は長き通氣筒の一方の口を漏斗狀のものを新鮮き空氣のある場所に置き他の一端は室の內に開らしむるやう出來得き筒內には車を仕掛け其の運轉によりて空氣を送り込む工夫です。此車を運轉させるヿは色々方法もありますが通常風車の力を借るのが費用も掛りません。かやうに述べますれば通氣法は隨分手數の掛る譯ですが衞生家がかやうに苦勞をしても通氣をするのを見ても空氣の大切な事が分りましやう。

煖室法　人間に最適しある溫度は攝氏十八度華氏六十二度の時です（勿論寒中病人子供は今少し高い溫度を要す寢室には居間より低溫度即攝氏の十六度を適度といたします）あれは寒からず暑からずと云春秋の時候ですが秋過て寒風の吹時節に成ますれば火の側が戀しくなります。さて寒氣の時煖りを取るには種々の仕方がございまして巨燵を擁し火鉢を抱くもありまたストーブを備付る家もございます。けれども火鉢を抱いても煖な處は手ばかり巨燵を擁しても煖な處は足ばかり脊中は矢張ゾクゾクと寒く迚も春風に吹かるゝやうな心地はいたしません。が上等のストーブを備付た部屋へ這入りますれば寒中でも惣身煖です。同じ火でありながら何故かやうに違ふものかと尋ねて見ますれば是には中々子細のあることです。炭火でも焚火でも石炭でも火であれば灰となるまでは絶間なく熱をいだします此熱を發射熱と申します火鉢を抱いて煖いのは此發射熱を直手に受けるからです。然るに熱は唯發射する計りでなく火の側に來る空氣を煖めます。して空氣は煖くなれば冷きものと入り代り常に運動して居ります。もし一室を締切りましたならば其內の空氣は煖くなります。かやうにしますれば强ち手を火の側に突き付けずとも煖です。かく空氣を煖め然る後人体を煖める熱を引導熱と申します。ストーブが室內を隈なく煖めるといふは此引導熱の爲です。さて發射熱と引導熱と何れがよろしきやといへば勿論引導熱の方です。發射熱の方は唯一局部丈け煖まり引導熱は惣身を煖めます。だから衞生上より申さば火鉢巨燵よりはストーブを用ゐたきものです

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

●成立學舍女子部高等師範科本科幼年科

各年級ニ入學差許候有志者ハ至急御申込アレ

東京駿河臺袋町九番地　私立成立學舍女子部

從三位伯爵東久世通禧君題

從三位子爵福羽美靜君題詞

大教正本居豐穎大人閱

從五位末松謙澄先生叙

從六位小中村清矩大人序

松風增田于信君譯

新編紫史

一名　通俗源氏物語

和本仕立　合本全十帙(二十冊)特約實價壹帙(二冊)金七十五錢宛　絹表紙付上等製本二冊ニ付廿錢增　通運賃八錢

洋紙摺壹册(和本二冊合)實價四十五錢宛

新編紫史ハ源氏物語ヲ通譯シタルモノナリ夫源氏物語ハ我邦小說ノ巨擘ニシテ空前絕後ノ大著感神泣鬼ノ妙筆ナルコト古來既ニ說アリサレハ鎌倉時代ヨリ今日ニ至ルマテ學士文人コレカ注釋ヲ施スモノ殆四十家ニ下ラス然レ𪜈僧其讀ミ難ク解シ易カラサルヲ以テ後世ノ人其書ヲ耳ニシテ其文ヲ目ニセス是ヲ以テ京傳馬琴以上ニハ小說ナシト爲シテ徒ニ支那西洋稗史ニ眷戀ス豈悲シキワザナラズヤ松風先生嘗テ大學ニ在リテ本邦ノ文學ヲ修メ文辭尤精妙ヲ推サル今此書ヲ譯シテ容易クコレヲ通讀スルヲ得ルノ便ヲ與ヘラレタリ文ハ曾テ原書ノ意ヲ失ハス語ハ古雅ニ偏セス鄙俗ニ陷ラス坊間刊行ノ小說ニ比スレハ眞ニ玉石ノ別アリ抑本書ノ利益ハ意匠ノ絕妙ノミニアラス當時ノ人情風俗及ヒ京洛ノ景况宮中ノ朝紳ノ有樣等ヨリ一般ノ世態ヲ詳ニ叙シタレハ人ヲシテ親シク一千年前ノ時代ヲ經歷セシムルノ想アラシム是他ノ歷史等ニ於テハ決シテ見ルコヲ得サルモノタリ苟モ皐識人タルモノハ必先一讀スヘキノ珍書タリ將タ讀マサルヲ愧ツヘキノ妙史ナリ●本書三千部限特約實價ヲ以發行仕候

右今般第一回發兌仕候間偏ニ御愛讀ノ程奉願候

東京神田區西福田町一番地　誠之堂

日本橋區本石町一丁目川岸　大八洲學會

○我樂多文庫第四號

本月十日發兌　定價三錢

移轉廣告

本館今般事務擴張ノ爲メ左記ノ場所ニ移轉シ益々館友ヲ江湖ニ募ル風流韵事ニ志アル諸君郵券貳錢送致次第館則ヲ呈スベシ

陸奥國弘前百石町　華月館

●教學論集第五拾六編

八月五日發行　郵稅共九錢

目次　●一躰二用說(島地默雷)○行誡上人言行記○明治諸宗綱要「法相宗(完)」(吉谷覺壽)○農業の事(干河岸貫一)●教學苑林○西詩の種類○作文南針○野蠻人の鼻○世諺故事●雜錄○吊工人碑銘(鳥尾得庵)○鐵舟居士の詩歌○哲言●勝友會誌○宗教改良說○吾人ハ何ノ爲ニ生活スル乎(完)○厭離穢土ノ辨●叢錄○カントの傳○偉人の行爲●雜報○僧侶の府縣會議員○各府縣監獄教誨○各親任官○本願寺集會解散○米國來信、外數件●十二册前金郵稅共九拾錢

東京芝公園廿六號

發行所　無外書房

いらつめ第十二號目次

社説　男女交際論。
小説　空行く月(第四回)。
家政　人工の片腕‖小兒を丈夫にする法‖小兒病(ヒキツケ)の話(醫學士竹中成憲口述)　發病療法。
流行　稀珍の帶‖スキヤ‖十一二歳より十四五歳までの少女の下衣‖若き貴婦人の夏衣‖扇‖婦人洋服雛形付。
化粧　手の色を白く滑にする法‖日に燒ける手を白くする法。
批評　浮草(水前)‖謝於く細君‖紅崎山人新作かざしの菊‖物集高見氏新作水の江。
文藝美術　和歌數首‖新十二月令門會唱歌‖唱歌モードムラン。　新曲宮城曲。
學藝　篝の話。
講義　用器畫傳授法。
寄書　求愛の歌(水前)
月報　數十件‖女學雜誌谷雪欄内いらつめの批評の評の批評。
餘興　新謎題四‖前號謎の答。
通信問答　數件。
通俗衛生學　醫學士竹中成憲氏述。

いらつめ第十三號目次

社説　女子を實験の犧牲とする勿れ。
家政　ひきつけ療法。　醫學士竹中成憲氏。百日咳療法‖小兒育て方習慣の話。
小説　空行く月(第四回下)。
學藝　甘露を降らす法(寄書入)。
文藝美術　歌數首‖孤芳女史‖米国唱歌‖美妙。新作唱歌‖美妙。音樂稽古の仕方‖上眞行氏。
流行　男衣‖稀珍の帶‖洋化牡丹の簪‖金足水晶玉の簪‖銀蒔繪の櫛‖すみれの香水‖香水瓶をさげる山‖懐中の時計‖玉飾しの時計鎖‖孔雀扇‖藤紫編子時置紙廣告‖米國貴婦人間の日本風流行。
化粧　曹達で髪毛を洗ふ弊害‖髪毛を保存する法。
講義　用器畫稽古の新法(寄書入)。
雜集　文學大家平生會話の巧拙‖人工の片腕(寄書入)
批評　明治唱歌。故の森。本郷W・S生に。
談話　姑と嫁。
餘興　前號謎の解○新作謎。
月報　日本演藝矯風會發會批評。
特別寄書　和洋兩服の利害可否を論じ全國の淑女紳士に謀る　醫學士竹中成憲氏。

いらつめ賣捌所

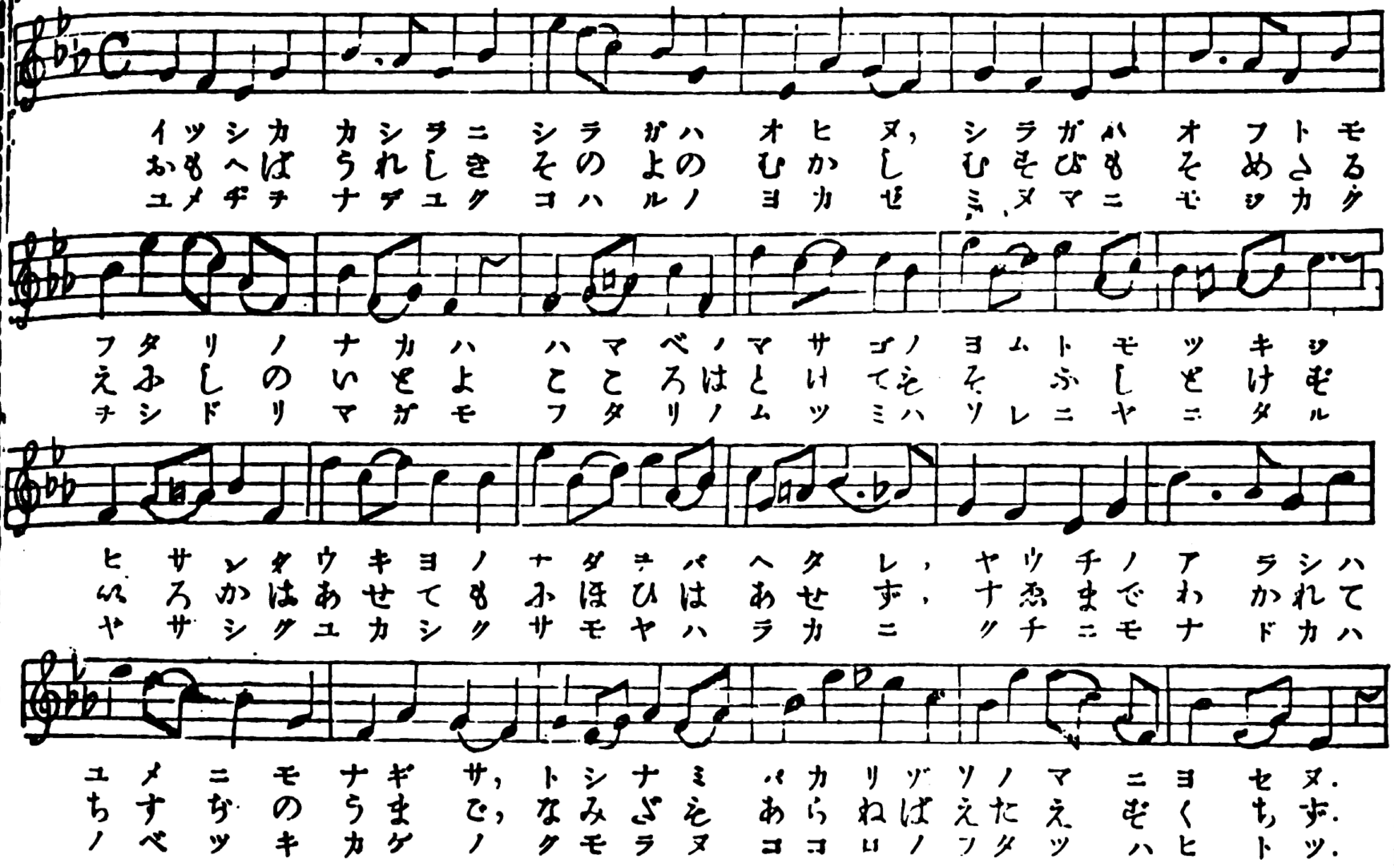
東京日本橋區新葭町	良明堂
同神田區淡路町壹丁目	殿々堂
同　同　佐柄木町	東海堂
同　同　雉子町	闘々社支店
同　同　今川橋傍	吉岡商店
同　同　錦町壹丁目	武藏屋
同　同　南神保町	江川
同日本橋區蠣殼町壹丁目	信文堂
同本郷區元富士町	盛春堂
同　同　春木町貳丁目	解明堂
同麴町中六番町	耕雲堂
大坂心齋橋備後町	岡島支店
堺熊野町	高山凌雲堂

○いらつめ代價　一冊金八錢　六冊(半年分)金四十五錢　十二冊(壹ヶ年分)金八十錢　府外毎號郵税壹錢宛申受○毎月十五日發兌
雜誌代ハ前金ニアラサレハ御送附不申候金子御差送ノ手續ハ郵便小爲替ナラハ拂渡郵便局トアル所ニ神田郵便局ト御記入ノ事幷ニ受取人氏名トアル所ニ神田區駿河臺南甲賀町八番地成美社ト御記入ノ事
○廣告料一行(五號文字二十七字詰)金八錢○十一行以上金七錢○二十一行以上金六錢　但シ前金ノ事

發行人　武田安之助
編輯人　山田武太郎
印刷人　佐野忠吉

發行所　東京本郷區湯島天神町壹丁目五十九番地
成美社

遞信省認可



ともしらが。　美妙齋

いつしか　かしらに　しらがは　おひぬ、
しらがは　おふとも　ふたりの　なかは
はまべの　まさごの　よむとも　つきじ、
ひさしく　うきよの　なみをば　へあれ、
やちの　あらしは　ゆめにも　なぎさ、
としなみ　ばかりぞ　その、まに　よせぬ。

おもへば　うれしき　その　夜の　むかし、
むすびも　そめたる　えにしの　いとよ、
こころは　とけても　その　ふし　とけず、
いろかは　あせても　にほひは　あせず、
そこまで　わかれて　チスヂの　うまで、
なみだも　あらねば　えさえず、くちず、

ゆめぢを　なでゆく　こはるの　よかぜ、
水沼(みぬま)に　文字かく　をし鳥　まがも、
ふたりの　むつみは　それにや　にたる…
やさしく、ゆかしく　さも　やはらか、に
くちにも　などかは　比べツキかげの
くもらぬ　こころの　ふたつは　ひとつ。

(麹街平河町文祥社刷行)